



九州大学経済学部同窓会
 事務局 〒819-0395
 福岡市西区元岡744
 九州大学経済学部内
 TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
 mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
 郵便振替 01750-6-21743

目次

<p>令和4年度行事予定(総会のご案内) / 1</p> <p>追悼</p> <p> 名誉教授 秀村 選三先生を偲んで</p> <p> 九州大学名誉教授 木下 悦二 / 2</p> <p> 九州大学名誉教授 市村 昭三 / 3</p> <p> 九州大学名誉教授 東定 宣昌 / 4</p> <p> 九州大学名誉教授 荻野 喜弘 / 6</p> <p> 第六代同窓会長 福岡 道生氏を偲んで</p> <p> 九州大学名誉教授 原田 溥 (昭和30年卒・昭和32年博士入) / 8</p> <p> 東京支部副支部長 杉 哲男 (昭和43年卒) / 9</p> <p>支部だより</p> <p> 東京支部 事務局長 吉元 利行(昭和53年卒) / 10</p> <p> 関西支部 理事 長野 かおり(平成元年卒) / 12</p> <p> 福岡支部</p> <p> 《寄稿1》微笑みの国ラオス、癒やしの国ラオス 甲斐 敏洋(昭和41年卒) / 12</p> <p> 《寄稿2》国立大学法人九州大学の監事(非常勤)就任報告 工藤 重之(昭和52年卒) / 14</p> <p>同窓生健筆模様</p> <p> 『管理会計の挑戦 リスク・スラック・バランス』 九州大学名誉教授 西村 明 / 16</p>	<p>リレー随想</p> <p> 九大第三分校</p> <p> 園田 健夫(昭和29年卒) / 18</p> <p> 「恩師からの贈りもの」と「学生歌の伝統継承」 佐野 よし彦(昭和38年卒) / 20</p> <p> 先生方の思い出</p> <p> 松川 太郎(昭和60年卒) / 21</p> <p> 理学部入学から経済学府修了までの20年 —宇宙地球電磁気学と会計学— 原口 健太郎(平成28年博士入) / 23</p> <p> 資格のススメ</p> <p> 山口 圭三(令和3年QBS修了) / 24</p> <p>人物往来 ～新教員紹介 / 26</p> <p>経済学部名誉教授の会 九州大学名誉教授 福留 久大 / 28</p> <p>国際学術交流振興基金執行状況報告</p> <p> 国際交流委員長 瀧本 太郎 / 29</p> <p>卒業生就職状況 / 30</p> <p>同窓会役員名簿 / 31</p> <p>同窓会歴代会長 / 32</p> <p>同窓会からのお願い / 32</p>
---	--

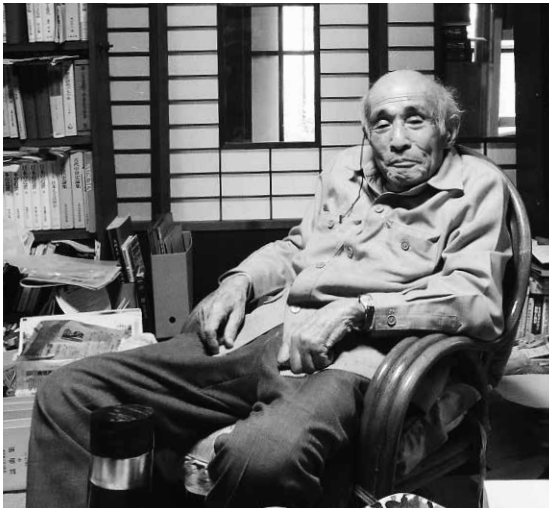
令和4年度行事予定(総会のご案内)

令和4年度の各支部総会を下記の通り予定しております。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいませようご案内申し上げます。コロナウイルスで変更されることなく、3年ぶりに開催できることを念願致しております。

<p>令和4年度 関西支部総会</p> <p>日時 令和4年5月 開催予定</p> <p>場所 未定</p> <p>〈お問い合わせ先〉 関西支部事務局 谷村 信彦 TEL(090)6678-6754 E-mail nobuhikotanimural@gmail.com</p>	<p>令和4年度 東京支部総会</p> <p>日時 令和4年7月7日(木) 18時～</p> <p>場所 学士会館 210号室 (東京都千代田区神田錦町3-28 TEL(03)3292-5936)</p> <p>〈お問い合わせ先〉 東京支部事務局 吉元 利行 TEL(090)8877-9012 E-mail t29yoshimoto@aol.com</p>
<p>令和4年度 全国・福岡支部合同総会</p> <p>日時 令和4年6月27日(月) 18時～</p> <p>場所 西鉄グランドホテル (福岡市中央区大名2-6-60 TEL(092)771-7171)</p> <p>〈お問い合わせ先〉 福岡支部事務局 国生、高木 公益財団法人九州経済調査協会内 TEL(092)721-4900 E-mail soumu-02@kerc.or.jp</p>	<p>令和4年度 広島地区九大法・経同窓会総会</p> <p>日時 令和4年11月 開催予定</p> <p>場所 未定</p>

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、変更・中止の可能性があります。出席希望の方はホームページでのご確認をお願いします。

追悼 名誉教授 秀村選三先生を偲んで



2013 (平成25) 年11月 自宅にて

秀村選三先生の御逝去は、大きな驚きであり悲しみでした。先生は、同窓会の初代事務局長でありましたし、同窓会報へも数多く寄稿してくださいました。そういう先生ですので、本号で追悼のために多くの紙面を充当できれば良いのですが、御逝去の時点で通常の紙面構成を予定して多くの寄稿者が決定してしまし、追悼のための紙面が限られていました。編集関係者間で協議の結果、秀村先生の多方面の御活躍を勧案すると、第71号だけに留めず、第72号以下においても思い出の記を掲載したいということになりました。そういう経緯で、本号には秀村先生と特別に深い縁を結ばれた経済学部関係者四名、秀村学部長の前任者として経済工学科創設など学部運営で苦勞を共にされた木下悦二先生、無教会主義キリスト者として60年歩みを共にされた市村昭三先生、創設にあたって秀村先生が心を砕かれた石炭研究資料センターで後進の経済史家として尽力された東定宣昌先生と荻野喜弘先生をお願い致すことになりました。

秀村先生の思い出

九州大学名誉教授 木下 悦二氏

秀村先生とは生まれた月日が12月10日と同じで、私は2年年上でした。

私が昭和38年7月に九州大学経済学部助教授に就任した時の教授会メンバー（助教授を含む）は13名と少数でした。そのため学部長などの学務は教授の生年年次順で引き受けていた。国際経済論教授の吉村先生が、産業労働研究所の所長に就任されたため、小生が教授となり、昭和43年には都留、湯村両先生が外国留学のため突然学部長に選任されたが、就任前に米軍機が九大構内に墜落した。学長から辞令を受けるために、初めて大学本部に参ったところヘルメットを冠った学生達が乱入してきた。その後の混乱した情勢の下で、年若い私は学生対策に任じられ、学生との団体交渉を重ねたが、混迷下、半年で学部長を辞任しました。

情勢が落ち着いて昭和49年に再度学部長に就任した時には、厳しい経済情勢の下わが学部の図書費が年間500万円しか組めない状況下で、予算拡大のために学部改革に取り組んだ。時の大学事務局長が元一橋大学事務局長だった人物で、そこで大講座制（教授数複数の講座）に改組した経験の持ち主でした。彼の指導で経済学部を大講座制に改組し、経済工学科が生まれ、予算規模は東大経済学部に次ぐ規模になったものの、非常に厄介な改組のご負担を次期学部長の秀村先生に押し付ける形となりました。

小生は九大定年後、九州学園理事長の田中健蔵先生（元九大学長）から福岡女子短大を四年制大学に改組するのに協力するようご依頼を受け、九州学園理事に就任しましたものの、理事会、教授会、事務局の協力を全く得られないままに打つ手もなく行き詰まっていました。

そうした折に、秀村先生から久留米大学商学部を改組し、経済学部を分離創設するのに協力するようお話があり、瀨瀬久留米大学学長から「経済学部設置担当教授」の辞令を受けました。その際の学長のお話から、秀村先生が如何に厚い御信任を得ておられるが知られ、誠に深い感銘を受けました。これは小生の秀村先生に対する最も強い思い出です。

具体的には、久留米大学では大学院が学部の上に設置されるのではなく、複数の法文商三学部の上に設置された「文系大学院」でした。これは久留米大学が医学部と商学部から発足していた歴史から生まれたのでした。秀村先生はこの異例の複合学部大学院で指導的支柱的役割を果たされていたのです。



木下先生の乾杯の挨拶 2007年度学士院賞・恩賜賞受賞祝いの会
於：ホテル日航福岡

故・秀村選三先生を偲ぶ

九州大学名誉教授 市村 昭三氏



秀村選三先生は、2021年（令和3年）4月15日未明、98年余の御生涯を終えられた。

先生は、肺炎で入院中に脳梗塞を併発されましたが、対応が早く、思考と言語の機能は温存された。失われた

右半身の手足機能回復のため、市内のリハビリ病院に転院、その後、施設に移られた際のメール写真では、血色もよく、ふっくらとした微笑みに満ちておられた。これなら、先生の例の「正面突破精神」できっと回復されるに違いないと希望を膨らませていた矢先に、先生が召された知らせを受け愕然とした。

しかし、考えてみると、先生は、前年、そのご生涯の折々に出会った恩師、知己、旧友との交わりや紹介など感謝と愛を込めた文書を、学部長時代の秘書服部民子さんに手伝ってもらって纏められた最後の本『恩師・知己・旧友』を出版され、御生涯を総括的に振り返って「ただ、感謝あるのみ」と序文に記されている。

もちろん、先生は多くのやり残した仕事—九州各地の古文書の発掘、解読、評価、保存などの仕事—を抱えておられた。しかし、先生は、それぞれの分野において、多くの弟子を学内外に育てており、安心して残された仕事を委ねることができた。たとえば、佐賀鍋島藩の家老であり邑主であった多久家とそれに関連する古文書を継続的に研究する目的のために、「多久古文書の村」という教室を立ち上げ、地元の行政当局、一般市民を組織して、ご自身その村長となって直接、教育、指導を行われた。似たような例としては、放置され、散逸にさらされていた他の多くの九州地区の古文書の発掘、保存、分析などのための組織づくりや、そのリーダーとしての活躍は、いろいろな形で継承されている。

先生がただ一つだけ悔やんでやまなかった仕事は「福岡県史編纂」の中断である。そのことを繰り返し残念がっていた。

私が、秀村選三先生と最初にお目にかかったのは、1960（昭和35）年4月、一橋大学大学院を終えて、

西南学院大学商学部へ奉職のために福岡市に移り住み、内村鑑三・塚本虎二・矢内原忠雄の流れをくむ無教会天神聖書研究会に初めて出席した時であった。当時、先生は、九大経済学部の助教授で、工学部の松尾春雄教授、医学部の問田直幹教授などと共に、聖日の聖書講義を担当する講師の一人であった。

それから60年を超える信仰上の導きと励ましを頂きながらの交わりである。さらに、1970（昭和45）年10月、私自身の九州大学経済学部奉職以後は、教授会の一員として、公私にわたり導きと励ましを受ける幸せに満ちたお交わりを頂いた。

先生は、1922（大正11）年12月10日に福岡県福岡市にて出生。県立福岡中学（現福岡高等学校）、旧制福岡高等学校を経て、京都帝国大学に入学。京大への志望は、同大学で当時、日本経済史研究の権威であった本庄栄治郎がいたからである。京大在学中、いわゆる学徒出陣で一年十カ月海軍に従軍。

敗戦により、自宅は戦災、預金封鎖、また、青島で山東鉱業株式会社の社長や魯大会社の日本側代表をしていた父が、敗戦で未帰還のまま追放、在外資産の全部喪失。

当時、京大経済学部長蜷川虎三の勧めで、九大経済学部へ転学し、幸いにも本庄栄治郎の弟子で生涯の恩師となる宮本又次教授に出会う。また、古文書の大家竹内理三、農村社会学の喜多野清一に指導を受ける。その後の多年の研鑽の集大成が、2007（平成19）年、江戸時代における郷土制度下の郷村を精緻に分析した著書『幕末期薩摩藩の農業と社会—大隅国高山郷土守屋家をめぐって』（創文社）で日本学士院賞・恩賜賞受賞であった。

先生は、それまで叙勲など個人的な栄誉は辞退していたが、これは大学としての研究業績になるからと言われてお受けしたが、全く思いもよらぬこととして受け取られた。先生の謙遜なお人柄をしのばせる言葉である。

先生は、学士院賞・恩賜賞を、天皇、皇后両陛下の御前で頂き、別の会場で参考資料を展示して説明した。その折、鹿屋航空隊の特攻基地で学友林市造も鹿屋から出撃したことを申し上げ、「林が彼の母あてに書いた手紙があります。お読みいただければどうかと申し上げたら、皇后陛下が『読みましょう』と仰せられた。私は、さらにロンドンで出た『母への手紙』（Letters to Mother）という本は、ナポレオンやゲーテ、モーツァルトなどの有名人が母にあてた手紙を編集していますが、日本人ではただ一人

林の手紙が載っています」と申し上げた。

林市造は、福高、京大で共に学び、思いを共にした親友で、「特攻」として出撃に際し、聖書と讚美歌を飛行機に携えて飛び立った。

先生は、母親を次のように回顧している。

平常は身体も弱く、やさしい母であったが、時に驚くほど強く、毅然とした明治の女であった。秀村家の本家は、何代も続く由緒ある椿八幡宮の神職で、父自身も神社と本家のために多大の尽力を尽くした。その父が、家に飾られている神棚を、離婚されるのを覚悟で焼き払った母のキリスト教信仰を寛大に認めたこと、子供4人をすべて信仰に導いたことに敬意と感謝を表し、晩年には、父自身がキリスト信仰を仄めかすまでに影響を与えたほどの母であった。

その母が、飛行専修予備学生として土浦航空隊に入団後、肺浸潤と診断され原隊に帰され、屈辱と耐え難い思いで憔悴しきっている先生を思っ、「母は誰もが驚くほどの粘り強さで海軍省へ嘆願の手紙を何通も書き、父や兄にも動かざるを得ない手紙を書いたようである」。軍国の母そのものである。最愛の息子の死の覚悟を受け入れて、海軍省へ働きかけた甲斐があって、飛行機乗りではないが、開設されたばかりの魚雷艇の特攻戦隊突撃隊に転勤し教育を受ける道が開かれた。

母として、敢えて息子に死の道を選ばせ、それに向かって邁進したのは、所謂好戦的な軍国心からではなく、息子の真情を知ってからは、祈りのうちに「生き甲斐のある生と死」をさせたいという切なる母親の気持ちからである。それは、信仰の師塚本虎二の「平和は平和を愛する者の血によって来る」という言葉を、息子に書き送った手紙から推察される。

しかし、魚雷艇を特攻用に改造を願い出た秀村少尉に対して、突撃隊司令飛田大佐は「聞いておく」と言われただけであった。

分隊長宇都宮大尉は、特潜を希望した秀村少尉に「貴様は俺のところにおれ」と言って、その後、何も触れずに厳しく、温かく海軍士官としての教育を課した。その教育を先生は「私が一生のうちに唯一人、男の惚れる男」の教育と、敢えて公言する程である。

先生は、海軍では随分厳しいしごきにもあったようですが、本当に良い上官に恵まれた。「戦争は別として人間として、海軍士官としてのジェントルマンシップ教育は、本当に良かった」と漏らしている。それは、学部長や石炭研究資料センター長を始め、

九州各地の地方史研究の組織作りや指導の上に生かされている。

先生が、最後に出版された『師・知己・旧友』の序文で述懐された「ただ感謝あるのみ」の言葉は、先生を偲ぶに最もふさわしい結びの言葉である。それは、ヤンチャで一本気気質の背後にある謙遜な、誰かれなく接する人々を愛してやまない先生のお人柄から醸し出された幸福なご生涯を偲ぶにふさわしい言葉である。

秀村選三先生

九州大学名誉教授 東定 宣昌氏

1968(昭和43)年卒

2021年4月15日、秀村選三先生がお亡くなりになった。享年98歳であった。若い同窓生は先生をご存知ない方もあるかと思うので簡単にご経歴を紹介しておこう。

先生は1922年12月福岡市生まれ、大名小学、旧制福岡中学、旧制福岡高校を経て京都帝国大学経済学部に入學された、43年学徒出陣で海軍に召集され、魚雷艇艇長で敗戦となり、45年復學された。敗戦後の状況の中で46年4月九州帝国大学法文学部経済科に転入學され、翌47年9月卒業された。大学院特別研究生を経て、51年九州大学助教授、66年教授となられ、86年に退官された。その後久留米大学比較文化研究所で同大学教授として98年まで研究をされた。ご専門は日本経済史で、近世の雇用労働史を研究され、2005年には『幕末期薩摩藩の農業と社会－大隅国高山郷士守屋家をめぐって－』で徳川賞、さらに2007年には恩賜賞・日本学士院賞を受賞された。

先生は御専門だけでなく、その周辺でも幅広くご活躍された。昭和30年代から日本の石炭鉱業はエネルギー革命の中で崩壊を始めた。このとき田川郷土研究会が産炭地田川の郷土年表を編纂しようとする、先生はこれに積極的にかかわり、筑豊石炭鉱業の栄枯盛衰を日本の歴史の中で捉え明らかにし総括されようとした。

1973年から6年をかけてようやく『筑豊石炭鉱業史年表』は刊行された。この間の永末十四雄氏(田川郷土研究会会長)・田中直樹氏(慶応大学院生・現日本大学名誉教授)との編纂方針と進行をめぐる激しい論争は、刊行が内容は同一の西日本協会版と田川郷土研究会版の二つの形式を取ったことに象徴的である。

年表はB5判840頁の大部なものであった。しか

し時間の制約から昭和期は稿本とせざるを得ず、幕末～大正期も内容を詰め切れなかった点があるのを遺憾とされ、補正のため『エネルギー史研究ノート』を刊行された。当初は同人の株数制の出資金により、大いに遊び心をも満足させるものであった。のちに九州大学に石炭研究資料センターが設置されると、『エネルギー史研究』と改題され機関誌となり、現在も刊行され続けている。

先生は年表の編纂過程で石炭関係史料の保存が不十分であり、また石炭鉱業の崩壊により散逸していくのを目の当たりにされ、たいへん心を痛められた。専門の史料館・文書館がないのなら、その時点で存在が確認できる紙上の文書館を作っておくのが歴史家の責任であるとされ、『九州石炭礦業史資料目録』の作成にまい進された。目録は年表と同じように専門研究者・民間研究者・ライブラリアン・アーキヴィスト・実務経験者・学生などあらゆる関係者を「広場」に集めて作業が進められた。この「広場」を先生は産学協同ならぬ民学協同と称された。目録は昭和49年度以降60年度まで文部省の研究成果刊行費の助成を得て第12集まで刊行された。「継続は力なり」という言葉があるが、先生はこの言葉をよく口にされ、多くのまったく肌合いが異なる人々を広場に集めて率先して粘り強く作業を遂行された。

こうした先生の「エネルギー」は九州大学においては産業労働研究所の改組に際して石炭研究資料センターの創設となって実を結び、先生は初代センター長に就任された。同センターはその後さらに改組され、現在中央図書館付設記録資料館となっている。

先生は上記センターの創設に際して、九州大学のキャンパス内ではなく、旧産炭地に置くことを熱望された。しかしこの希望はいろいろな事情から実現できなかった。すると先生は大学内の手続きをすっ飛ばして「九州大学石炭研究資料センター分室」の看板を勝手に旧産炭地飯塚市に掲げられた。しかも関係者だけでなく堂々と各新聞社の記者を集めて披露された。当事者の一人であった私は眼をつぶり、学内処罰を覚悟した。しかし何事もなかった。先生曰く「断固として行えば鬼神も避ける」。やんちゃ坊主先生の面目躍如であった。

大いに力を注がれたものに福岡県史編さんがある。先生は旧制福岡高校の恩師玉泉大梁先生がかつて『福岡県史』全4巻を編さんされたが、近世までで中断されざるを得なかったことを惜しまれ、遺志を引き継ぐ「敵討ち」のような気持ちで引き受けられたようであった。

その編纂方法は通例の県史とかなり趣を異にするものであった。一つはヨーロッパの地方史に学び半永続的県史編纂を目指された。そのため県庁内に事務局を置かず、財団法人西日本文化協会内に新たに福岡県地域史研究所を設立されて編纂をされた。一つは史料集を重視され、史料の性格に合わせて本の形態を決定されたことである。そのため県史史料編はA5・A4・B5・B4判、さらに加えて横判・縦判とさまざまな判型で出版されることになった。先生曰く「プロクルステスの寝台はいかんですわ」。

しかし残念ながら諸般の事情で秀村県史は中断を余儀なくされた。この中断を大変残念がられ、いつでも再開できるように、収集した史料が散逸しない



秀村ゼミ合宿 寒鷺亭（佐賀県多久市西溪公園内）1973年夏
右から2人目が秀村先生、右端前から2人目が筆者

よう一括保存に努力された。これは新設された九州歴史資料館に県史閲覧室の設置となった。また地域史料研究会を設けられ県史研究の火種を残すために腐心された。これは江藤彰彦氏（久留米大学教授）・山田秀氏（元九州産業大学教授）を中心にして運営され10年の歴史を重ねている。

1979年には佐賀県多久市に多久古文書の村を開村し、村長に就任された。自然科学の分野では演習林や臨海実験所等大学キャンパスを離れ、現地において地域と密着して研究成果を挙げているのを見て、他の分野でもそうした研究方法を採用すべきであると考えられていたからである。石炭研究資料センターの場合と同様であった。

多久は古文書の宝庫であり、日本の農村を外国人や留学生に体験してもらうのにも優れた地域であった。古文書村は細川章氏（多久市図書館）を中心に継続的に史料集を刊行し、先生や江藤彰彦氏を中心に古文書学校を開校して後進の育成にも努力した。またボン大学・ポッフム大学の日本学専攻学生やメキシコの現地研修生を多数受け入れたり、森本芳樹先生（元名誉教授）の関係から多数の著名な外国の研究者を受け入れ、活発な国際交流を行った。こうした活動により1985年サントリー地域文化賞を受賞し、現在も大園隆二郎村長・尾崎葉子散使の下で活発な活動を続けている。

研究の延長はいつしか遊びとなり、遊びはまた学問と結びつき、ないまぜになりながら「よく遊びよく遊べ」という先生の信条は多くの人を楽しませ、強い影響を与え続けている。先生有り難うございました。

今、先生のご遺体はご誕生の地、九州大学医学部に帰り、若い医学徒の教育に資するために静かに眠っている。

秀村選三先生を偲んで

九州大学名誉教授 萩野 喜弘氏



■出会い

秀村選三先生のお名前とお顔を知ったのは1974（昭和49）年のことで、先生が編纂代表をされていた『筑豊石炭産業史年表』の刊行を紹介する新聞記事でした。当時、私は東大の院生であ

り、筑豊の炭鉱労資関係の研究に取り組むことを決めたころでした。秀村先生に初めてお目にかかったのは、1975年6月に学習院大学で開かれた社会経済史学会全国大会の折で、日本大学生産工学部の田中直樹さんの紹介であり、東定宣昌さんにもお会いしました。

その後1978年4月、久留米大学商学部専任講師に採用になり、福岡の地で、秀村グループの人たちとご一緒することが多くなったわけです。そして、1983年4月に九州大学石炭研究資料センター（石炭研）助教授として採用され、秀村センター長のもとで、東定助教授、今野孝助手とともに、資料活動と研究に取り組むことになりました。

■秀村先生と史料

秀村先生は、「史料のひと」でした。先生は恩師宮本又次先生をはじめ、多くの先生方とともに史料調査に参加し、とくに近世庶民生活史料調査委員会が実施した史料調査では、庶民史料の重要性と面白さに気づいたそうです。史料調査によって史料の保存状況に危機感を抱いた先生は、率先して史料の調査・保存活動に関わってきました。私も参加した調査には、福岡県古文書等緊急調査、石炭資料調査、福岡県史史料調査などがあります。

また、先生は「民学協同」を提唱された。学問は象牙の塔に籠るのではなく、大学は広く社会に開かれるべきだとして、民間の方々との交流を重視されたのです。その代表的な活動として、「多久古文書の村」があります。この「村」は、多久市及び周辺地域の古文書・古記録の保存・整理・保管などを目的としており、秀村先生は村長として、散使（さじ）の細川章さんとともに、史料調査、史料集翻刻、古文書講座などに取り組んでこられた。その活動が評価されて、「多久古文書の村」は1985年にサントリー地域文化賞を受賞しております。

■福岡県史の編纂

福岡県史の編纂は、秀村先生が全力をあげて取り組まれた事業ですが、現時点では未完成のままです。

1979年ころ、当時の亀井光福岡県知事からの要請で、秀村先生らが福岡県史編纂の在り方などを検討し、両者の間で、①県史編纂は永続事業であるべきである、②史料調査に時間をかける、③史料集の編纂を先行する、④通史の刊行は急がないことを基本方針に、⑤当面、近世編、近現代編の編纂に限定し、⑥編纂は委託方式とすることが確認された。翌年に福岡県史編さん委員会が発足し、委託先は財団法人西日本文化協会とし、同協会内に福岡県地域史研究

所（所長秀村選三）を設置し、編纂事業にあたることになった。この編纂方式は、これまでの自治体史の編纂とはまったく異なる独自のもので、福岡県史方式と呼ばれたほどです。

福岡県史の編纂は、1980～2001（平成13）年度の22年間で63巻を刊行したところで、県側の事情で「終了」となりました。この間に収集・整理・保存された史料は、原文書のほか、多数のマイクロフィルム、地図、写真、絵ハガキなど10万点を超えています。これらの県史編纂史料は新たに設立された九州歴史資料館に移管され、閲覧およびレファレンス業務が引き継がれています。

■秀村ゼミとお酒の思い出

秀村先生は学部ゼミを石炭研で行うことが多く、それに私もよく参加しました。また秀村ゼミでは卒業記念旅行を行っており、私も萩、日田の旅行に同行したことがあります。萩では何人かの学生が酔いつぶれたこと、日田では球磨川下りなど懐かしい思い出です。

秀村先生は、下戸でビールをコップ半分ほどの酒量でしたが、酒席は好きでした。九大箱崎キャンパスでは研究会などの後に居酒屋「海門」などで、地域史研究所では電気ビル地階にあった「デンキグリル」などで、秀村先生をまじえて、大いに語り合ったことは数えきれないほどです。また、先生は宴席も好まれ、調査の打ち上げなどでは、求められると、「渡辺綱の鬼退治」を声色入りで演じられたこともありました。

■秀村先生の研究スタイル

秀村先生は、宮本又次先生の鹿児島行きに同行したことがきっかけで、薩摩藩の農村史研究を志すことになり、そのフィールドを大隅国高山（こうやま）郷に定められた。先生の研究スタイルは、厳密な史料分析と聞き取りを基礎に、地域の景観、人々の生活、伝承などを踏まえて、社会構造を明らかにするというもので、その地域社会の構造的特質を明らかにするために西南辺境型藩領国型という類型設定を提起された。その研究の到達点が秀村選三『幕末期薩摩藩の農業と社会—大隅国高山郷土守屋家をめぐって—』（創文社、2004年）でした。この研究によって、先生は第97回（平成19年）恩賜賞・日本学士院賞を授賞しました。

■最後に

秀村先生と最後にお目にかかったのは、2019（平成31）年6月18日に開かれた経済学部同窓会の福岡支部総会の懇親会の場でした。この時の総会は、木

下悦二名誉教授（満98歳7か月）の白寿を祝する会でもあり、懇親会では、木下先生の挨拶があり、乾杯の音頭を取られたのが秀村先生（満96歳7か月）でした。この席上で、秀村先生は、私に「伊都に木を植えよう」、「県史史料を続けよう」という二つのことを話された。先生にとって、この二つが気がかりだったに違いありません。このような秀村先生のいわば遺言にいかに応えるかは残された者たちの大きな課題といえましょう。

秀村先生は天神聖書集会に参加されていた敬虔なクリスチャンでした。先生は、福岡聖書研究会のイースター集会（2012年4月8日）で「私の聖地」と題する講話を行っています。

その講話で、「私の信仰の原点は“復活”にある。母が召された時、西区青木の海岸で見た美しい生の松原に、母の復活を確信した」と語られています。

天に召された秀村先生はきっとご母堂、そして奥様と語らっておられることでしょう。

秀村選三先生のご冥福を心よりお祈りいたします。



この写真は昭和48年7月8日のゼミの多久合宿の時のものです。

市立図書館の2階に細川章さん（1924-2014。多久市立図書館司書）が収集した炭鉱関係の資料が保管されていて、そこを見学した際に収集物を使用して記念撮影をしたものです。この後、炭鉱の労働争議の姿（はちまき、ゼッケン）で、スキヤキ鍋を囲んで大コンパとなりました。実際に何かを要求してデモに出かけた訳ではありません。

写っているのは、（左から）今野孝、中楯潔、奥川潔、本松保博（以上秀村ゼミ生）、細川章さん、秀村先生。

思い出の写真 中楯 潔

追悼 第六代同窓会長 福岡道生氏を偲んで



畏友福岡道生君の逝去を悼む

九州大学名誉教授 原田 溥氏

1955(昭和30)年卒

1957(昭和32)年博士入



福岡道生君が亡くなったという知らせを、福岡名誉教授から聞いて驚いた。福岡君が病気であるようなことは聞いていなかったし、年賀状も届いていたからである。

畏友福岡君との交友は70年に及ぶ。太平洋戦争の末期、昭和20年の4月、私達は旧制中学明善賢に入学した。この、いかめしい校名は旧有馬藩の藩校に由来するものだろう。空襲警報の発令が繰り返され、入試の日程が変更されるという異常事態のなかでの入学だった。思えば大変な時代だった。久留米は日華ゴムなどの軍需工場があり、一度は低空飛行の米軍機の機銃掃射を受け、私達は学校の奉安殿がある小さな林の中を逃げ惑ったことを憶えている。

ドイツ文学者富士川英郎がエッセイ「読書清遊」の中で久留米がうけた壊滅的打撃について述べている。即ち「私は所用があって出かけた福岡県の吉井という町から久留米を経て鳥栖に至ったことがあった。久留米はその前の日に空襲を受け、全市が一面焼野原となった、無事に残っている家は一軒もないような有様であったが、私はその余燼がまだ至るところくすぶっている街を歩いて久留米駅まで歩いて行った」。

その全市壊滅状態の久留米市を、福岡君と私は篠山城下から、市を縦断して久留米のはずれの我が家の方向に向かって、言葉もなく、ただ黙々と歩いて帰校したことがある。彼との交友の始まりの日々の一齣だが、あの時代を生き残った人なら誰しも似たような経験をもっているだろう。

福岡君との交友がどのようにして始まったかは、定かでない。福岡君は級長だった。きっと入学試験の成績が良かったに違いない。私は父親の転勤に伴い、2年の2学期に福岡に移住したため、彼との交友は一時中断したが、昭和26年、九州大学に入学した六本松キャンパスで再会し、爾来70年に及ぶ交友

が復活した。

出身高校の違いがあったり、外国語の履修クラスの違いがあったりしたが、いつしか一つのグループが形成された。彼との交友を語る上では、どうしてもこのグループについて語らねばならない。当時教養部の経済学の講義は、満鉄調査部から引き揚げてこられた岡崎次郎先生が担当しておられた。先生は沢山の翻訳の仕事を抱えて、多忙を極めておられたが、無謀にもこのグループで、アダム・スミス『国富論』の講読のご指導をお願いしたところ、意外にも引き受けていただいた。これは、私達の幼い経済学の勉強会の始まりだが、この頃から彼の英才ぶりは、際立っていたと思う。

あるとき福岡君からロシア民謡を教わったことがある。旧制高校寮歌に明け暮れていた私にとってそれは、実に新鮮な響きをもっていた。フランス映画「天井桟敷の人々」について熱心に語ることもあった。これは、彼の別の側面を語るものだが、こういうことを通じて彼との友情は一層深まった。

私達の若き日の友情については、さらに語ることもある。誰しも思い、経験することだが、こうしたグループの行き着く先の一つは、同人雑誌の発行である。収穫、成果を意味するドイツ語だが、「えるんて」と題した。もう70年も昔のことだが、書庫の中から、その2号と4号を見つけ出した。毒舌家の岡崎先生は、「世に3号雑誌というのがあるよ」と言われたが、先生の予想に反して4号まで出た。この2号に「山國川伝説についての一考察」という共同研究がある。同窓会報の58号に福岡君が「経済学で学んだこと」というエッセイの中で大分県山國川治水に関する調査の際、深耶馬溪の夜に眺めた星空



の美しさについて語っているのは、その時のことである。この調査は、たしか「えるんて」同人で、後、早逝したが英才の桐井忠夫君が、中津市に縁があり、いろいろ便宜をはかってくれて実現したもので、それをまとめたのは、後、文学部に行き、ドイツ農民戦争研究について知られた研究者となる前間良爾君だった。確か、もう皆3年生だったかもしれない。

経済学部に進学後、福岡君は馬場克三先生の経営学のゼミへ、私は田中定先生、都留大治郎先生の農業政策のゼミへ分かれたので、あまり語ることはない。ただ世にいわゆる宇野理論が喧伝される前に、彼は宇野弘蔵『経済原論』を精密に読んでいた。また彼の言によれば就職試験の面接の際、宇野恐慌論について、若い試験官と論争したということである。彼が就職試験を受けた昭和30年は、就職の極めて困難な時期であったが、彼は八幡製鉄と農林中金の二つに合格した。昭和30年という就職の極めて困難な時期において、それは極めて稀な事例であったし、福岡君の優秀さを示すものだった。大学卒業後の進路は、こうして彼とは別々の道となったのだが、企業に就職した私の友人達を通じて、福岡君の経済界における活躍はしばしばもたらされ、私は親友の活躍を祝福した。それは八幡製鉄（後の新日鉄）という日本を代表する巨大企業における活躍にとどまらず、日本経済団体連合会の専務理事として、活躍の場は財界へと広がった。当然、以前のように親しく会う機会も少なくなったが、会えば変わらず、かつて熱く語り合った文学青年としての福岡君にもどった。

残念ながら今やその機会は失われた。青春時代を回顧し、福岡君の逝去を悼むのみである。

第六代同窓会長・福岡道生さんを偲んで

東京支部副支部長 杉 哲男氏

1968(昭和43)年卒



東京在住で、経済学部&全国の同窓会で活躍された「福岡道生さん（昭和30年卒）」が今年3月、享年88歳で逝去された。

福岡道生さんと初めてお会いしたのは平成4、5年頃、私が東京支部の事務局

長を拝命した頃であった。故尊田耕吉さんが東京支部長に就任され、次期支部長候補として副支部長に就任願った時である。長身痩躯、ロマンスグレー、

縁なしのメガネ、英国紳士を思わせるダンディな姿はその後も変わること無く、今でも懐かしく思い出される。

その後、尊田さんの後任として支部長に就任され、平成8年、全国の会長に就任された。

福岡さんは昭和30年卒業と同時に八幡製鉄（現・日本製鐵）に入社、労働部長などを歴任され、平成4年、日経連（現・日本経済団体連合会）の専務理事として、我が国の経済政策、特に労働政策に指導・提案する重要な職責にあった。我が国の経済運営において、労働政策は極めて重要な課題であり、「春闘」など世間の注目を集める課題に論陣を張っていた。国の基幹産業であった鉄鋼の労使交渉が「春闘」のリード役でもあり、対する労働側の「連合」の会長は、鉄鋼労連出身の鷺尾悦治さんであった。お二人は期せずして、八幡製鉄時代の労使のリーダー同志でもあったこと、人生の巡り合わせともいえよう。当時は、バブル崩壊後の経済低迷期に突入しており、就職氷河期と言われる労務課題も山積しており、また、社会的にも地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災など、大変な事件が頻発し、社会のリーダーとして多忙を極める時期であったかと思われる。

その中で、平成12年まで約3年半、会長を務めていただき、同窓会活動の安定的な発展に寄与していただいた。その間、東京支部長として、英断いただいた幾つかの項目は現在の活動の根幹となっている。当時、年功的な高年次の理事で構成されていた理事会に、多くの若手理事を新たに加え、特に女性理事の登用に尽力された。まだ、ジェンダーへの意識が乏しかった時代に提言され、今日の若手メンバー理事の活躍に繋がっている。また、総会の開催日を7月7日・七夕と固定し、年に一度の会合へのモチベーション向上の一助とされた。「七夕総会」として親しまれ、今日に続いている。

会長退任後も、顧問として名前を連ねていただき、平成14年、発足の「全学部・東京同窓会」にも「参与」に就任していただき、今日まで、それぞれの同窓会を見守っていただいた。

私が、平成25年より、東京同窓会・事務局長に就任してからも、何かとお気遣いいただき、活動のサポートをいただいた。その関係で、3、4年前、ご自宅にお電話したことがあり、元気なお声を聞かせていただいたのが最後のやり取りになった。

88年の充実した人生を送られ、安らかにお休みかと思います。

感謝の言葉と共に、心よりご冥福を祈ります。

支部だより

東京支部

関東では、東京を中心に断続的に緊急事態宣言とまん延等防止重点措置が実施され、同窓生が一堂に会しての活動に大きな制約が生じています。しかしながら、東京支部においては、以下の通り、新卒者歓迎会、支部理事会、東京支部総会、Summer Festaをオンライン開催しました。

1. 5月15日新卒歓迎会の開催

東京支部では、8年前から、関東地区に就職・進学等する経済学部卒業生を歓迎する会を毎年4月の第一土曜日に開催していましたが、今年はオンラインで5月15日（土）に開催しました。例年卒業祝賀会で開催の案内を行っていたものの、3月の学位記授与式のあとに開催される卒業祝賀会が昨年到现在に中止になりました。そこで、各ゼミ単位の学位記授与が実施される教室を訪問して「新卒歓迎会」の案内を行いました。しかし、新卒者の入社式や新入社員研修もオンラインで開催されるなどかつてない環境の下で、4月の開催を見送り、5月の開催も過去最少の3名の新卒者の参加にとどまりましたが、昨年や一昨年の新卒者などを含め20名の参加の下で開催しました。

新卒歓迎会は、東京支部の秦 喜秋（三井住友火災海上保険元会長）支部長から「新入社員となったみなさんへ」と題した挨拶と講演から始まりました。乾杯の後、先輩卒業生から、「私の新入社員時代」のエピソードを含む自己紹介、新卒者の自己紹介の後、3部屋に分かれて、先輩に対する質問タイムを各20分、2回に分けて実施しました。オンラインとはいえ久しぶりの画面越しの対面で、社会生活に関する質問や経験のエピソードなどの会話が弾み、温かい気持ちに包まれました。

2. 6月2日理事会

6月2日（水）7時からオンラインで、13名の理事の出席のもと東京支部の理事会を開催いたしました。理事会では、7月7日の全国総会・東京支部総会の開催

方法について検討しました。その結果、ワクチン2回接種済みの方は有楽町の東京オフィスに集まり、大学の本部と各卒業生はオンラインで結ぶハイブリッド型の同窓会として開催することにしました。

オンライン形式の利点である距離的な制約がない点を活かし、海外で活躍する卒業生も参加できるようにし、昨年より、企画内容を増やすこととしました。

3. 全国総会・東京支部合同総会

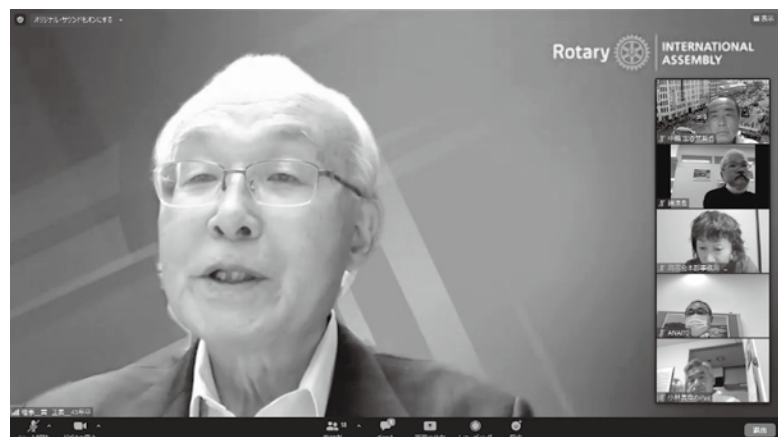
7月7日（水）午後6時から全国総会・東京支部総会をオンラインで開催しました。あらかじめ、同窓会報とチラシなどで、オンラインの接続先を案内し、70名近くの同窓生から事前登録をいただき、Zoomを使い、有楽町の東京オフィスにワクチン接種済みの支部役員・理事が参加し、また、福岡の同窓会事務局、同窓会長を結んだハイブリッド形式で開催しました。

第一部の全国総会では、貫正義同窓会長兼福岡支部長のオンラインでの挨拶ののち、今年から同窓会の本部事務局長に就任された大坪稔先生による同窓会の昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案、役員の変更案の説明があり、いずれも承認されました。

続いて、第二部の東京支部総会に移り、吉元事務局長より、昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案、役員の選任案の説明があり、いずれも承認されました。

第三部は、記念講演。法学部昭和48年卒で、今年の春まで住友生命保険相互会社の会長を務められていた佐藤義雄さんに、「ニューノーマルにおける生命保険経営」と題して、保険市場の動き、新型コロナ対応、健康増進型保険などについてお話いただきました。

第四部からは、懇親会となり、秦支部長のあいさ



全国総会 貴会長あいさつ（中橋潔氏撮影）

つその後、今年4月に経済学部研究院長・学部長に就任された大石桂一教授にあいさつをいただきました。懇親会は、若手理事の嶋田君と水田君の司会で進行し、2回にわたるブレイクアウトルームでの懇親、シンガポールと香港駐在の卒業生からの現地での活動レポート、新卒者のあいさつなどを交えて実施しました。最後には、「松原に」の合唱の画像を流しながら、終了しました。

この総会の実施に当たっては、各スピーチを行う国内外の参加者との連絡・接続テスト、挨拶録画の収録と接続テスト、進行シナリオに基づくりハーサルなど事前準備を十分に行い、当日も感染対策を行い、有楽町オフィスの2部屋を3つに分けて実施しました。若手理事を中心に、皆様のご協力で無事総会を終えることができました。

4. 東京同窓会Summer Festa

8月の最終土曜日である8月28日午後5時より、九州大学東京同窓会主催の「2021 Summer Festa」をオンラインで開催し、経済学部からも多数の卒業生が参加しました。

6月から原則毎週水曜日、有楽町東京オフィスやオンラインでSummer Festaの企画会議を実施し、今年のテーマ、企画内容、広報、集客などの検討を実施しました。当初は、ワクチン接種が進む中、例年開催している銀座東武ホテルでのワクチン接種済み者に限定した会場実施と未接種者のオンライン参加を想定し、オリンピックイヤーにふさわしい企画を検討しました。

しかしながら、東京における新型コロナ感染拡大の影響のもと緊急事態宣言が延長されたため、オンライン開催のみに変更せざるを得なくなりました。

今年のSummer Festaは、コロナ禍での開催とオリンピックイヤーであることを意識し、「超える、支えあう、知り合う」をテーマに、開会にあたって、卒業生をつなぐビデオでの聖火リレーとコメント、Summer Festaに今まで協賛していただいた博多土産3社（如水庵、ふくや、めんべい）を支援する名産品セットの購入協力をお願いすることなどを企画しました。当日は、200名を超える参加登録のうち、常時130名以上の接続があり、100名を超える参加者から博多土産（3,000円セット）の購入をいただきました。

Summer Festaでは、東京支部総会における活動状況の報告ののち、櫻井龍子東京同窓会会長（元最



Summer Festa 有楽町オフィスから櫻井龍子会長とサポートメンバーで

高裁判事）のあいさつ、石橋達朗総長のあいさつのち、伊東信一郎経済学部同窓会副支部長の乾杯のあいさつで懇親会が始まりました。（残念ながら、東京オフィスでは、お茶で乾杯しました）。

今年は、ベトナムの九大同窓会の会長のVinhさんや事務局長のほか1名の3名の参加をいただき、海外から、また福岡をはじめとする九州各地、四国、中国、関西など遠隔地からの多数の参加もありました。3回にわたるブレイクアウトルームでは、「今を語ろう」「大学時代の思い出」「コロナ禍後にやりたいこと」の各テーマで20分間5～6人ごとに分かれて語り合っていました。その合間に、上海、ハノイ、ロンドン、サンパウロから、現地駐在の卒業生のレポートやスーダンから医療奉仕に取り組むロシナンテスの川原さん（医学部卒）の報告と協力をお願いなどをオンタイムで行いました。最後に、来年の東京公演を準備する九大フィルの現役学生による弦楽四重奏によるメドレー演奏のビデオを配信し、「松原に」を聴きながら、終了しました。

このSummer Festaの企画運営に当たっては、各学部の若手のボランティアが参加し、九大東京同窓会事務局とともに、13回にわたる推進会議を開催しました。推進委員会メンバーは、経済学部同窓会東京支部の若手理事、卒業生が半数近くを占め、メンバーで企画を詰め、動画の撮影、ビデオの編集、国内外のコメント提供者との連絡やテストなどを実施したことで、当日はスムーズに運営することができました。ここに、オンラインでの経済学部同窓会東京支部総会、およびSummer Festaの運営にご協力いただいた方の個別のお名前を記すことができませんが、感謝の意を表明したいと思います。

【東京支部事務局長 吉元 利行 昭和53年卒

九大東京同窓会事務局次長】

関西支部

松の実会

(九州大学女子卒業生の会)

関西支部発足、会員大募集中!

大阪では2020年4月に第1回目の緊急事態宣言が発令されて以降、発令、解除が繰り返されており、4回目の緊急事態宣言下で当稿を執筆しております。例年の慣例であるOB懇親会や日帰り観光ツアーの企画は自粛を余儀なくされ、同じキャンパスで青春時代を謳歌した気の置けない仲間同士で、世代を跨いで交流する機会がなくなり、寂しい感が否めない昨今です。

そんな中にも昨年、嬉しい出来事がありました。関西支部に安藤由紀さん(平成2年卒)が大阪に単身赴任して来られたことで女性会員が増えました。私事で恐縮ですが、これまで大阪市内で開催される懇親会は「男の中に女が一人」が常でした。もともと経済学部の女子学生比率が低いことや、卒業後に大阪に住まわれる方が福岡・東京と比較すると少ないので、仕方がないことだと思いつつも、女性会員が増えることを念じて(!)おりました。願いが叶い、現在は「男の中に女が二人」となり、気の置けない女子卒業生仲間ができて嬉しい限りです。

ところで、皆さん(当報の読者の方は男子卒業生の方が大半だと思います)は、『松の実会(九州大学女子卒業生の会)』をご存知ですか?安藤さんは、松の実会東京支部の会員でしたが、当会には関西支部がありませんでした。そこで、昨年3月に安藤さんを支部長として私と2名で関西支部を立ち上げ、第1回懇親会(@ミシュランガイド大阪に掲載されたスパイスカレー店)を開催しました。写真は、経済学部卒の安藤さんと私の2名ですが、現在は1



右が安藤さん、左が筆者(緊急事態宣言解除中)

名(平成元年理学部卒)増えて、計3名で活動しています。3月:サタデーモーニングを楽しむ会@伊丹空港近くのカフェ、4月:お花見&懐石ランチ@吉野山(奈良県)、5月:オンライン飲み会&会員誕生会、7月:絶品グルメバーガーを食す会@大阪市内(緊急事態宣言解除を受けて)。

現在、松の実会関西支部は部員大募集中です。立ち上げ後も引き続き、関西では経済学部卒業生が中心となって女子卒業生の輪を広げていきたいと考えております。関西在住の女子卒業生(卒業年度、学部不問)の方をご存知でしたら、是非とも松の実会関西支部をご紹介頂けます様、お願いいたします。

松の実会関西支部連絡先:

安藤由紀(E-mail: integrity.hope@gmail.com)

【関西支部理事 長野 かおり 平成元年卒】

福岡支部

毎年11月に刊行する同窓会報の福岡支部だよりには、5月のゴルフ交流会、6月の支部総会等の活動報告を掲載していますが、今年も新型コロナの影響で、これら行事がすべて中止または延期となり、掲載する原稿の当てがなくなりました。そこで福岡支部の会員の皆さんに、近況報告などの原稿を募ったところ、5名の方から投稿していいというご連絡をいただきました。大変有り難いことですが、紙幅の関係で、今号は1966年卒の甲斐敏洋氏と1977年卒の工藤重之氏の原稿を掲載させていただきます。他の3名の方の原稿は、次号(同窓会報第72号)に掲載予定です。ご協力有り難うございました。

(福岡支部事務局)

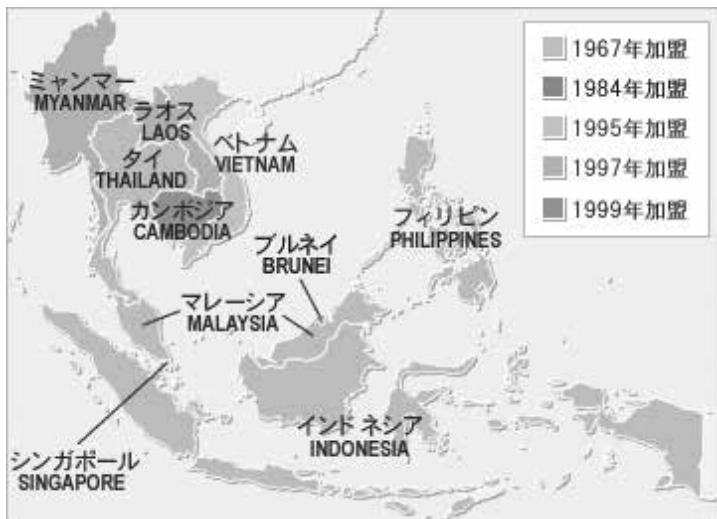
《寄稿1》

微笑みの国ラオス、癒やしの国ラオス

甲斐 敏洋氏

1966(昭和41)年卒

早いもので、卒業後来年で56年目を迎える。ゴルフ会・総会・交流会でも上から数えて何番目かになってきた。私は九大卒業後山九運輸機工(株)(現山九(株))に入社した。山九時代の40年間は他を



顧みず社業に邁進し、その後の（公社）福岡貿易会、現在の（株）正興電機製作所では一転して福岡・九州企業の国際化と海外事業展開に関わってきた。一方プライベートでも色々な会合には極力都合つけて参加し、旧交と友好を進めてきたが、昨年8月重慶火鍋朱大明さん、今年1月同期の三菱自動車佐藤君、3月に山崎元福岡市長、4月西日本新聞社川崎さん、6月インド会でご一緒してきた住友商事吉元さん等々親しくしてきた人達が次々と亡くなられ、死を身近に感じている今日この頃である。本稿を記載している中でも千葉真一さん、笑福亭仁鶴さんの訃報が入ってきた。8月に入り事務局高木さんから同窓会報寄稿の案内をもらった。今回近況報告に代え福岡貿易会時代から関わってきて、私のライフワークと位置付けている、日本人にとってなじみの薄いラオス人民民主共和国（以降ラオス）を簡単に皆さんに紹介したい。

1. ラオスって何処？どんな国？

「ラオスは周辺を中国雲南省、ミャンマー、ベトナム、カンボジア、タイに囲まれた海のない国」「国土は日本の本州と同程度」「人口は700万人程度、民族は60%のラオ族と、50の少数民族で構成」「地勢は国土の80%が高地、農耕地は3%程度」「国民の大半が仏教徒（上座部仏教）で国民性は穏やかで、まさしく微笑みの国」「歴史的には8世紀ごろ中国南部から南下。1353年古都ルアンパバーンにラオ族によるランサーン王国建国・国家統一。その後ビルマ、タイからの侵略を受けヴィエンチャンに遷都、その後王国が北部、中部、南部の三つに分裂。1889年仏領インドシナ（ベトナム・カンボジア・ラオス）に組み込まれる。第一次、第二次インドシナ戦争後1975年北ベトナム軍の支援により王制廃止、共和制

に移行」「政体は人民民主共和制（ラオス人民革命党による一党独裁体制）」「1997年アセアン加盟」「政治的にはベトナムと兄弟関係にあり、経済的文化的にはタイと近い。近年新都心開発、中国昆明～ラオスヴィエンチャン間の高速度鉄道建設等により中国の影響が大きくなってきている。日本とは親しい関係」「首都はヴィエンチャン」。

2. ラオスとの関わり

チャイナプラスワンとして発展著しいタイ、ベトナムの次に来つつあるカンボジア・ラオス・ミャンマーの勉強をするために2008年8月福岡貿易会、九産局、九経連、九経調、商社、物流会社とで「インドシナ半島研究会」を設立し、9カ月間の勉強会後2009年2月福岡貿易会の「インドシナ経済視察団」を派遣した。その視察団の最後の訪問地がラオスの首都・ヴィエンチャンと古都・ルアンパバーンであった。ルアンパバーンは1995年に街全体が世界遺産に登録され、2007年ニューヨークタイムズで「今世界



ヴィエンチャン・タートルアン寺院

で一番行ってみたい街」として紹介され、欧米からのバックパッカー、シニアリタイアメントの旅行者で賑わっていた。仏教国のラオスの男性は一度は出家しなくてはならず、早朝の各寺院からお坊さんが托鉢に出かける風景、毎夜繰り広げられる手織り民芸品などのナイトマーケット、そして街中から30分も車を走らせると「絹織りの村」「紙すきの村」「焼酎づくりの村」があり、まだこんなところが残っているのだと何とも言えない気持ちにさせられた。とりわけ私たちの琴線に触れたことはメコン川の支流で無邪気に川遊びに興じている子供たちと、水場までの幅1メートルもない竹の橋でした。帰福後訪問団メンバーでラオスに何かできないかとの会合を開き、福岡とラオスとの文化・経済交流、ラオスの留学生の支援等を目指して2010年4月福岡ラオス友好協会を設立した。又ラオス政府によって在福岡ラオス名誉領事館が2011年1月設置され、現在名誉領事に久原本家代表の河邊哲司氏が就任されている。来年2、3月頃には訪問団を出したいと思っている。来年の訪問はラオス(ヴィエンチャン・ルアンパバーン)と時間のある方はタイ北東部の古代タイ(チェンマイ・チェンライ)を訪問の予定である。是非ご一緒されませんか？



パトウサイ凱旋門



毎朝早朝の托鉢風景

《寄稿2》

国立大学法人九州大学の監事(非常勤) 就任報告



公認会計士

福岡支部評議員

工藤 重之氏

1977(昭和52)年卒

(1) はじめに

私や皆さんの母校である国立大学法人九州大学の監事(非常勤)に令和2年9月1日付で就任しました。

先日、昨年からのコロナ禍で、同窓会総会や忘年会、ゴルフ会等同窓会行事の中止または延期が続き、同窓会報の原稿集めに苦勞されているとの同窓会事務局からのメール連絡がありました。「監事就任は個人的な話であり、就任から1年余り経過しての報告」のため寄稿すべきかどうか躊躇いましたが、皆さんの母校の最近の状況に関する話でもあるので、就任挨拶かたがた、この1年間で私の理解した範囲ですが、国立大学法人やその監事について報告させて頂くこととしました。

(2) 国立大学法人九州大学について

私が卒業した頃は、「国立九州大学」でしたが、1990年代末から、主として政府の行財政改革や大学改革の一環として国立大学の在り方の見直しが始動され、様々な議論を経て平成15年7月16日に成立した国立大学法人法により、平成16年4月1日に国立大学を設置する法人として「国立大学法人九州大学」が成立しました。これにより、国立九州大学は文部科学省という行政組織の一部としての大学から、法人格を持った国立大学法人九州大学が設置する大学とされたのですが、「国立大学」としての位置付けに変わりはなく、引き続き、国からの運営費交

付金など大学運営のために必要な財源的措置は継続されることとされました。この結果、国立大学法人は、学生納付金や附属病院の診療収入等の自己収入に、文部科学省から配分される運営費交付金を加えた収入予算をもとに、自主的、自律的に運営されることになったわけです。

国立大学法人には、役員として「その長である学長」、「理事」（法人ごとに人数を定める）及び「監事」（2人）を置くこととされ、学長（九州大学の場合は総長なので、以下、「総長」という）及び監事は、国立大学法人の申し出に基づき文部科学大臣が任命、理事は総長が任命するとされています。私も昨年9月1日付で萩生田文部科学大臣より、「任命書」を頂きました。恐れ多い事です。

また、国立大学法人には、総長及び理事で構成する決議機関としての「役員会」のほか、国立大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として「経営協議会」が、教育研究に関する重要事項を審議する機関として「教育研究評議会」が設置され、その運営を担っています。

（3）国立大学法人の監事について

監事は、国立大学法人法において「国立大学法人の業務を監査する」と定められています。監事は、業務監査と会計監査の双方を担うものであり、その具体的な監査事項としては、①関係法令、業務方法書、規則等の整備状況及び遵守状況、②中期計画及び年度計画の実施状況、③予算の執行及び資金運用の状況並びに決算の状況、④物品及び不動産の管理状況、⑤人件費の状況、等があります。

監事は、ほかの役員とは異なり、その職務の性質上、大学の運営に職務として直接携わることはできないとされ、決議機関としての「役員会」の構成員ではなく、業務が法令等に従って適正に実施されているか、効果的かつ効率的に実施されているかを監査し、意見として報告するのが役割ということです。

さらに、昨年、「国立大学法人ガバナンスコード」が策定され、各国立大学法人は、このガバナンスコードへの適合状況等を報告・公表することとされましたが、この報告内容を監事が確認し、意見を述べる役割が加えられるなど、強靱なガバナンス体制による自律的・戦略的な法人経営に向け、監事の責任・役割も強化される方向にあります。

任期残り3年、監事としての職責を十分に果たし、母校に貢献していきたいと思っています。

（4）経済学部卒業生（同窓会会員）の国立大学法人九州大学との関わりについて

経済学部卒業生の国立大学法人九州大学の役員への就任状況を見ると、総長、理事への就任者はおられないようです。監事への就任は、①昭和43年3月卒の酒井能章先輩（任期・平成20年4月～平成24年3月）、②昭和49年3月卒の善福勉先輩（任期・平成24年4月～平成28年3月）、③昭和46年3月卒の藤田和子先輩（任期・平成24年4月～平成28年3月）、のお三方がおられました。先輩諸氏の監事としての母校への貢献に敬意を表するとともに、これを引き継いでいきたいと思っています。

また、経済学部同窓会会長の貫正義先輩が、「総長選考会議」の学外委員として、総長の選考や評価に、(1)の「経営協議会」の学外有識者委員として、経営に関する重要事項の審議にそれぞれ携われ、母校に貢献されています。

私が確認できたのは以上の方々ですが、ほかに関わりのあった方がおられましたら、私の不知をご容赦ください。

（5）最後に

同窓会報紙面にも限りがあるとのことですので、以上の簡単な報告しかできませんが、もっと詳しく国立大学法人九州大学の現状等を知りたい方は、九州大学のホームページをご覧くださいと思います。ホームページには、九州大学の沿革のほか基本情報やアクションプラン、中期目標など諸々の要公表事項が掲載されており、また「同窓会」のページもありますので、一見、一読の価値はあるかと思っています。

.....

《お知らせ》

1. 令和3年度忘年会のご案内

福岡支部では、忘年会を下記の通り開催します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時 令和3年12月14日（火）18：30～

場所 八仙閣本店

福岡市博多区博多駅東2丁目7-27

TEL (092) 411-8000

2. 令和4年度全国・福岡支部合同総会のご案内

来年度の全国・福岡支部合同総会・特別講演会・

懇親会を下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和4年6月27日（月）18：00～20：45

場所 西鉄グランドホテル

（福岡市中央区大名2-6-60

TEL (092) 771-7171)

※新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、必要がある場合には追加の連絡をさせていただきます。

<お問い合わせ先>

福岡支部事務局 高木、国生

公益財団法人 九州経済調査協会 内

TEL (092) 721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

同窓生健筆模様

『管理会計の挑戦

リスク・スラック・バランス』

（中央経済社、2021年1月刊）302頁



九州大学名誉教授

西村 明氏

1 コロナウイルスが蔓延するいま、世界中の企業は危機管理（crisis management）の重要性を改めて痛感しているでしょう。もっとも最近では、グローバルに広がる競争と度重なる金融恐慌、さらには地球温暖化、自然災害、原発事故などにより、危機はすでに日本の企業にとって極めて身近なものとなっています。危機は経営活動の基盤そのものを突発的に破壊或いは弱体化させるもので、経営者のみならず従業員全体を脅威と不安に陥らせます。また確実に予測できるものではなく、計画的に危機を予防し、その計画にしたがって組織全体を統制する明確な管理システムを確立することも難しく、一般的に危機が発生した時に予防・対処のためにどのような措置をとり、安全のために機動的に各組織が如何に行動するかを明確にして置くほかありません。つまり、企業はサプライチェーンを含めて経営活動基盤を安定させ、確保するために、絶えず危機を想定し、そこで生じてくるリスクを計画的に統制し、組織構成員が速やかに危機を認識し、基本的な方針に従いながら各々が創発的に行動し、そして企業としては危機に対処するために一定のスラック（資金的余裕・利益内部留保）を保有しておかなければならないでしょう。

そこで、本書で論じている企業リスク管理

（enterprise risk management）がこの危機管理に交差し、特に今日その重要性が増しております。企業リスク管理は、企業の競争力と持続成長力を強めるために長期的にリスクを予想し、それを予防するだけではなく、リスクを利益機会に変え、時には利益機会のためにリスクを取り、そのための対策を具体的に検討し、戦略的な利益計画を編成することです。そこで、これまでの反省的な管理ではなく、予防的で・先取りのフィードフォワード管理を行い、計画的に利益・原価を改善・革新していかなければなりません。本書では、金融リスク・とりわけデリバティブ取引を事例として包括的機会・逸失機会管理（Comprehensive Opportunity & Lost opportunity Control: COLC）モデルを展開し、そこで管理会計が果たす役割を論述しています。しかしながら、経営過程においてこれを効果的、能率的に実施するためには、資金的余裕（スラック）が不可欠ですし、競争力と持続的な成長とをバランスさせる戦略、そして企業の環境や社会との調和、とりわけこの企業経営を支える利害関係者（特に従業員・顧客）との対話が必須の条件となります。そこで、本書の副題でもある「リスク・スラック・バランス」の経営思考が意味を持ってきます。現代の経営管理や管理会計は、まさにこの企業リスク管理を機軸に構築されています。本書の中身についても少し具体的に述べてみたいと思います。

2 リスクは、危機においては経営活動基盤の損傷にも繋がる事象ですが、継続的な経営における管理問題としては将来その生起が予測される企業損失事象の確率（期待損失）であり、それがゆえに利益機会の確率も予測し、リスクを利益機会に転化させるように、利益管理の中に位置づけなければなりません。そこで管理会計が大きく機能することになります。短期的な競争戦略に関わるリスク・利益機会を長期的な持続的な成長戦略に関わるリスク・利益機会と比較し、そこで差異を縮小するため、つまり



事前にリスクを予防し、或いは機会に転化するために改善やイノベーションを遂行し、最適な利益機会を予測し、より具体的な利益計画に落とし込み、さらにまた長期的な許容利益と短期的な見積利益との差異を分析し、より現実的な改善とイノベーションを事前に行い、最適な利益を計画し、それを原価管理（原価企画）にも結び付けていきます。ここでもまた原価改善が遂行されます。つまり、リスクや利益機会を機軸に改善・革新を遂行する利益企画・原価企画を展開し、経営のスラックを創出して、企業組織内部のみならず、企業と社会（特に利害関係者）・環境保護とのバランスを確保することになります。この具体的な方策としてCOLCモデルが存在しています。このCOLCモデルの効果的な実践には、有能な最高経営責任者（CEO）、最高財務責任者（CFO）、そして最高情報責任者（CIO）が協力し、科学的で信頼できるにデータと情報分析を踏まえて経営戦略・財務方針を構築しなければなりません。企業経営が社会・環境の営みと深く結びついている今日、管理会計もまたこのCOLCモデルと一体となり現代的な機能を発揮します。

3 この場合、特に大切なことは、この管理過程で生み出される財務的な成果（資産状況と経営成績）とその責任（accountability）のみならず経営過程で遂行される管理者の経営責任（controllability）を公開し、企業の利益管理とリスク管理について社会（とくに従業員、投資家、顧客）と対話し、企業が社会と共に継続的に成長していかなければなりません。そのためには、日常的に確立されているリスク意識と管理体制、そしてそれを支援する利害関係者の理解が、企業リスク管理と管理会計（会計責任と管理

責任そしてそれらの公開）を通して制度的に構築される必要があります。この継続的なリスク管理活動とその公開こそが、この度のコロナ禍の中での突発的な危機管理にも結び付いていきます。現に先進的な企業ではリスク管理で鍛えられた組織構成員の創発力（emergent competency）が社会の支援を受けながら危機を克服していているように思われます。経営危機は突然空間的に広がっていくのに対して企業リスクは時間的に伸びていきますので、日常的な企業リスク管理とそこにおける組織の創発力を基礎に危機を管理していくことが現代の不確実な時代には益々重要になっています。今日、リスク管理・危機管理が戦略的バランス、企業と社会・環境との調和から切り離されたとき、スラックは強権・収奪・粉飾から生み出され、一時的にはその経営は華やかに輝くかもしれませんが、時が経つにつれて色は褪せ、リスクを招き、クライシスに近づいていきます。最近の事例として、日産の元経営者、ゴーン氏の剛腕経営を思い出すだけで十分でしょう。その意味で、信頼される企業統治（ガバナンス）の確立が重要な意味を持ってきます。

4 本書は、先に刊行した著書（*Management, Uncertainty, and Accounting: Case Studies, Theoretical Models, and Useful Strategies*, Palgrave Macmillan, 2019）のなかで展開した不確実性と管理会計との関係をさらにリスク・スラック・バランスという視点から具体化しようとしています。いまや如何なる社会体制のもとでも不確実性と危機・リスクからはだれも逃れることはできませんが、企業は、民主主義体制のもとで組織構成員の創発力を発揮し、社会との対話を強め、リスクをできる限り事前に管理し、危機を回避しなければなりません。とりわけコロナ禍が蔓延し、真偽不明な情報が流布している時には、インフォデミックに陥り易く、客観的で、将来を予測できる財務情報と非財務情報による戦略意思決定や経営計画の確立が不可欠です。フィードフォワード的な優れた管理会計や会計責任・管理責任の公開システムもまたこのことに貢献できるのでしょうか。まさに危機とリスクが隣接している時期にこそ、管理会計の機能と役割が再検討され、過去の事実を捕捉し、さらにそれを越えて将来を見通すこのシステムと学問が活用されなければなりません。本書は、このような思いを込めて企業リスク管理と管理会計との関係を論じております。

（別府大学客員教授）

リレー随想

九大第三分校



九州朝日放送元代表取締役専務

園田 健夫氏

1954(昭和29)年卒

90歳。九大教養部第三分校(久留米市)に昭和24年入学、昭和26年経済学部へ進学した。戦後間もなく、国立大学制度は大改革し、「新制九大」が発足した。4年制で、前期は文科・理科の教養部、後期は成績次第で学部を選ぶ。第1回新制大学は、入学試験が6月、入学は9月で、1回生に限り一年半だった。終戦後で焼野原ばかり、どこも校舎不足だった。『九大教養部三十年史』によると「発足したばかりの教養部は、今日、想像もつかぬ貧困な条件下にあった。第一分校よりは第二分校、第二分校よりは第三分校が、より格段の差をもって、劣悪な教育環境にあった」。その通りで下見して驚き、がっかりした。旧陸軍の衛戍地だったが、戦後、放置され草茫々だ。セイタカアワダチ草のような雑草が一面、茂っている。荒地に10棟余りの木造兵舎があった。「これは大学ではない」誰も断じた。入学時に草は切られ整地されたが、木造兵舎は先生や学生の住居と教室に変わった。設備もない。図書館もスポーツ用具もない、最悪の大学だった。

入学してすぐ、英文学「サイラス・マーナー」だったか、私が指名され、読むことになった。旧制中学、新制高校に英文朗読はない。OPENは「オープン」、KNIFEは「クニフ」、読み進むと教室は失笑の渦になった。朗読は入試にないし、発音記号は試されない。そういえば、今も発音記号はわからない。

山中一正、数十年の親友、幼年学校、旧制山口高を経て入学。下宿では広辞苑のような形の英英辞典を枕にしていた。遊びも才覚があり、囲碁、ギター、ダンス、習字…など、すぐ、ものにした。後述の深山喜一郎が兄の影響で油絵を描いていたが、山中が「油絵は初めてだが、ちょっと貸してくれ」。絵具を持って一夜明けて帰って来た。深山が溜息をついて、「一気呵成に筑後川を描いてきたが、とても敵わん」。

親友、深山喜一郎、平家の落人集落、熊本県五箇庄の隣村に生まれる。趣味は、囲碁、釣りで、川・海釣りもうまかった。川でハヤを釣る時、20～30メートル間隔で始めるが、深山ばかり魚が釣れる。場所を替るが、釣れない。竿を取り替えても仕掛けを替えても、深山に釣果がある。「魚を集めるのが秘訣」だそう。労働法学者で学生ストが盛んな折、教養部長に就いた。50歳前後に学長選挙で、現職の田中健蔵学長との決戦投票にまで勝ち残った。深山の鮮やかな言動が学内若手の支持を得た結果だった。決戦投票惜敗の速報を聞いた直後に、倒れた。蜘蛛膜下出血、手術2回で、結果は、右半身不随で、悪いことに口が利けなくなった。相手の話は十分理解できるから、一面、最悪の症状ともいえる。闘病20年余り、逝ったが、九大の徳本正彦、福留久大名誉教授と私の3人が五箇庄近くまで、納骨に参列した。

政治学の具島兼三郎教授は、講義が漫談か講談のようで、満員。戦時中に日本の爆撃機が目標に命中しないことを「二階から目薬!」、講義ではなく講釈、バカ受けだった。具島教授の影響もあって、よく学生ストをした。安保反対、内閣打倒、箱崎移転…、試験もスト対象にしたが、数人受験した者があり、試験は成立、皆、前・後期合同の試験を受ける羽目になった。

哲学は佐々木助教授(後に教授・教養部長)でドイツのハイデッガーの哲学だった。ハイデッガーといえばヒトラーが好意をよせた哲学者である。当時、はやりの実存主義によるものか。余談だがナチズムの初期、米国の自動車王ヘンリー・フォード、ニューヨーカーパリ横断飛行のリンドバーグ、化粧品のココ・シャネルらがヒトラーを讃美している。

今地鉄太郎、上背があり、色男で女性にもてた。遊びも、ダンス・麻雀・囲碁…と達者だった。学業は私同様、悪かった。麻雀は、私が高校時代から愛用している牌を持ち込んだが、生憎、出来るのが三人しかいない。後に大分大学の教授になる竹屋芳昭を特訓して四人で楽しんだ。恐らく私は九大麻雀愛好者のルーツかもしれない。卒業時、今地は山口県庁に内定していたが、私に「失恋した。自殺する」といい残し、行方がわからなくなる。私と深山は連日捜し回り、西福岡警察署で、「処理済み」で写真だけ残っている自殺者を見つけた。洋服のネームが確認になった。

若く逝った人に田中信明がいる。卒業前、大病院でX線検査をして高圧線に触れ即死した。今なら大ニュースだが、当時、ベタ記事の扱いだっ

長谷川栄一、壱岐島からひとり入学、私も鹿児島川内高からひとりで、すぐ仲良くなった。人の顔と名前を必ず覚える男だった。九州電力に入社、卒業して十年余りで第三分校1、2回生の同窓会「白浪会」を発足させた。毎月平均4、50人が集まっていたが、昨年来、十数人が出席する。40歳台半ばの頃、私は長谷川に呼び出され酒房に行くと「子会社の九重にあるレークサイドホテルへ出向しろと、一、二年で社長だ」という。「それで」長谷川「俺は木賃宿ばかり泊り、洋式のホテルは無経験」。「まず、出向してみろ。お前は客の名前を覚える名人だ。がんばれ」。人気高く、「ホテルで“森林浴”を楽しもう」が話題を呼び、繁盛した。好漢、惜しむべし長谷川、60歳前に逝く。

「オウ、この4人、皆、越中ふんどしだ」長谷川が、大分合同の南里、朝日の西村、園田夫婦を前に披露した。もうサルマタ、パンツの時代だ。南里が自慢げに「俺は娘から誕生祝にもらった色模様のをしている。どれ、園田夫人にみてもらうか」。「いやです。けっこうです」。押し問答で、大騒ぎ大爆笑だった。ある日、わが家に娘の友人の高校生が数人いた。娘が越中ふんどしの話をしたら“ぜひ、見たい”と来た。どんな感想だったか聞き忘れた。

302人中、女性は2人で中島、永渕、成績は断然トップ、男性は後塵を拝していた。「俺は男の一番だった」と話すのは数人いるが、「第三分校の一番」とは言わない。その永渕栄子が特別奨学金を受けることになった。南里俊策が「永渕に金を借りよう。旧制佐賀高の同窓だし…」。長谷川と私がついてゆく。永渕は洗濯をしていた。「栄子、あのう…」、「あんたらに貸す金はないよ」。にべもなく、二人はさすが引き下がった。「園田さん、あんたもお金?」、「いや、俺は来週から始まる前・後期合同の進学試験に、普段欠席しているのノートもない。ノートを貸してくれ」。栄子は、ジーっと考えて、ただ「よし、ただし、赤鉛筆などで汚さないで」と。借りたノートは見事にまとめられていて、おかげで、希望通りの経済学部へ進学できた。

40歳前後に「第三分校・同窓会白浪会」を毎月催してきたが、毎度栄子は、私を捜し、手招きをする。私はさっと立ち上がりお迎えする。まるで女王に仕えるナイトのように。「お前がノートなど借りるから、生涯、頭が上がりらん」と仲間ら。ふたりのレジェンド、永渕はソルボンヌ大留学、アンドレ・ジード研究で博士学位取得、西南学院大教授、中島愛子は、米国の弁護士とか。

「園田も遊び好きだが、何をしても俺がうまい」、西村友裕の弁。西村は私と比べ、「囲碁は6段と3段、ゴルフはH15とH21、麻雀も釣りも俺が上」。囲碁・ゴルフ・麻雀・釣り・カラオケはサラリーマンの“近代五種競技”、社内外と付き合うのに必要である。私は西村にいった。「君にはひとつ無能がある。飲み屋でカラオケが始まると“帰ろう、帰ろう”と情けない声を出す。俺はディック・ミネで堂々だ。総合点では俺が上」。西村は編集局長、最後は福岡朝日ビル社長を勤めた。朝日新聞といえば、田中哲也がいる。学生ストのアジテーターであったが、新聞記者でも組合の委員長になり、印刷ストを指揮した。宮崎支局長時代は“土呂久砒素公害”を追求。特ダネ記事として名を上げた。私は放送記者だったが、新聞記者の友人は多い。十数人か。大分合同新聞には例の“ふんどし騒ぎ”の南里俊策、名文家で、一面のコラム「東西南北」を十数年担当した。西日本新聞は、坂井孝之、坂井義彦、森山邦人、まだいるが特に南博を挙げよう。米軍基地で通訳アルバイトをし、毎晩、帰途、タバコの吸い殻を大封筒につめて、私たちに振舞った。ワシントン特派員、政治部長、局長を歴任。テレビ西日本の副社長になった。同業者で日常親しかった。

政財界で活躍した人に、文部次官・高石邦男、全日空社長・近藤秋男がいる。地元デパートには博多井筒屋社長の谷喜久男がいる。再び軍事基地になった第三分校址に、私たち同窓生が記念碑を作ることになったが、高石が大いに尽力してくれた。

朝鮮戦争の最中、再軍備反対の声しきりの中「警察予備隊」が出現した。ノンポリの私は「警察の仕



九州大学第三分校正門

事が増えるからか」とたかをくくっていたが、やって来た隊員は、米軍並みのスマートな軍服姿だった。「保安隊」・「自衛隊」と名称は変わった。第三分校は、一年半で再び軍隊になった。幻の大学を評して、佐々木哲学助教授はぼつりと言った。「大学と軍隊は、相反する概念だ」と。(2021年8月)

リレー随想

「恩師からの贈りもの」と 「学生歌の伝統継承」



佐野 よし彦氏

1963(昭和38)年卒

このたび尊敬する福留久大先生、並びに本部事務局から本号への寄稿を依頼されました。ラストチャンスを与えていただいたことに感謝申し上げます。福留先生には、これまで関西支部勉強会に講師としてご来阪くださり、また数回にわたって和文・英文の研究論文を送っていただきました。この場を借りて改めて心からお礼申し上げます。

1. 忘れられない恩師からの贈りもの

◇大屋祐雪先生

先生が九大に赴任されて最初の統計学ゼミ生が川田隆夫君、柴田康之君、小生の3人であった。アットホームな環境の中で有意義なゼミ生活を送ることができた。卒業後、結婚式では先生ご夫妻に媒酌人になっていただいた。記念に頂戴した立派な母子の博多人形と源右衛門の雛人形は今も大切に飾っている。同窓会でご来阪の折は関西在住のゼミ生が先生を慕って集まった。

先生のご令息、大屋幸輔さん(大阪大学経済学部教授)には2008年11月の関西支部同窓会勉強会に講師として来ていただき、「統計学からみたリスク社会との付き合い方」というテーマで話していただき、楽しい時間を過ごすことができた。

◇高橋正雄先生

レポートを提出すれば優をもらえるという噂を聞き、高橋ゼミに参加した。授業以外でも先生は英語の専門書を希望者に読んでくださった。卒業して5年後に長崎から東京に転勤になったので、新宿の先

生のご自宅で開かれていた勉強会に参加するようになった。1975年～1977年の間、会社のニューヨーク駐在員として滞米中に、高橋先生がお仕事で訪米されるとのお知らせを大屋先生から受けた。ニューヨークでお会いし、ハドソン河のジョージ・ワシントン・ブリッジを渡ってすぐのニュージャージー州フォートリー市の自宅にも来ていただいた。その時近所に住んでいた同期の佐藤元彦君と当時フィラデルフィア駐在員だった柴田康之君が駆けつけて来てくれた。図らずもザ・ミニ高橋ゼミ・インUSAが実現した。ご帰国後に先生からお礼の言葉に添えて、ご本『誤訳』(高橋正雄編・竹内謙二著)が我々三人に郵送されてきた。

◇中楯 興先生

先生の授業を受けたが在学中は直接お話したことはなかった。卒業後、関西支部同窓会でお会いし、お話しているうちに音楽にも造詣が深くていらっしやるのが分かった。2003年に娘二人が出演する天神町の福銀ホールでの2台ピアノ演奏会にも来ていただいた。休憩時間にロビーで義兄の山崎良也と談笑しておられたお姿が記憶に残っている。その後、先生から、もしよければ世界音楽大全集(声楽篇)を送るよと言われ、喜んで拝受した。いま思うに、その頃先生は身辺整理をしておられたのではないだろうか。忌明け後に大野城市のご自宅を訪問したとき逢坂充先生と深町郁彌先生も来ておられた。

◇義兄 山崎良也

8才年上の義兄は妻の兄にあたる。九大経済工学科に赴任する前は熊本大学や滋賀大学にいて、彦根の官舎に泊まりに行ったこともある。2004年に次女がニューヨークのカーネギーホールとボストンの隣のケンブリッジにある音楽学校で開催されたピアノリサイタルに出演した際に夫婦で同行して、すぐ近くにあるハーバード大学を見学した。立派な図書館の近くに白亜の経済学部の建物があり、以前義兄がしばらくその研究室にいたことを思い起こした。義兄の当時のお土産に同大学のロゴマークVERITAS(真理)入りのバインダーが手元にある。

義兄からある日、家族ひとりひとりに励ましの電話があった。なんだか少し様子がおかしいと感じた。半年ほど経って危篤の知らせを受けた。余り頼りにならない僕に、頼りにしていると言った褒め言葉が耳に残っている。78年の生涯であった。優しい兄であり、僕にとっては恩師ではないが人生のよき師であった。

II. 学生歌の伝統継承

関西支部で学生歌の普及のために行った活動を下記の通り報告します。

◆学生歌のルーツと「松原に」の歌詞の特徴について調べたことを同窓会報第38号(2005年4月発行)に寄稿した。経済学部生が学生歌3曲と応援歌1曲すべてに名を連ねていて経済学部生には異才や多才が多い!?と感じた。「松原に」の作者秋山喜文さん(昭30年卒)から直接お聞きしたこと(作詞にあたって心がけた5つのポイント)を同号に掲載させていただいた。

◆CD作成

学生歌の普及のために関西支部理事会で協議して学生歌と応援歌をひとつにまとめたCDを作ることにした。音源は医学部愛唱歌集「ヒポクラテスの歌」に収録されている藤井凡大編曲・指揮によるコーラアカデミーの名演奏を複製させてもらった。この学生歌と応援歌を複製するにあたって著作権の問題があり、東京支部副支部長(コーラアカデミーOB東京代表)の杉哲男さんが関係者の同意を取り付けてくださった。複製の作業は藤井凡大さんと竹馬の友であった梅崎一夫さん(九大造船学科卒)が自宅の設備を使って材料費のみの価格で一枚一枚丁寧に手作業でくださった。そのようにして完成した50部のCDは非売品と表示して2007年4月の関西支部同窓会の折に希望者に500円寄付してもらって配付した。関西支部でのこのCD披露については同窓会報第42号(2007年5月発行)に掲載されている。

◆関西支部では「松原に」を斉唱する際、原曲通りだと高音域が若干苦しくなるので2度下げて前奏を付けてやや遅めのテンポで歌っている。

◆「九大学生歌 伊都との懸け橋」という見出しの朝日新聞の記事(2018年7月31日付夕刊)を大屋先生が送ってくださった。そこには秋山喜文さんのインタビューと通学路線バスで「松原に」が流れていることなどが書かれていた。この新聞記事を関西支部同窓会の折に配布した。

◆関西支部での学生歌の担当は今後眼を患って総会出席が叶わなくなった佐野から佐藤敏弘理事と中野善文理事に引き継がれる。(2021年8月22日)

追記：9月15日に大屋祐雪先生が御逝去されたことを、柴田康之さんからの電話で知りました。95歳とのことでした。突然の訃報に驚き、しばし茫然となりました。今年の年賀状では3人目の曾孫の誕生

を喜んでおられ、お元気の様子でした。それだけに大変残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(2021年9月27日)

リレー随想

先生方の思い出

鹿児島大学法文学部教授

松川 太一郎氏

1985(昭和60)年卒

私が経済学部に入學したのは1981年です。今年は40周年ということで、恩師である大屋先生と濱砂先生をはじめとして、印象深い講義を授けてくださった先生方をめぐり、思い出を綴りたいと思います。

その前に、私が経済学部に入學したいきさつを書かせてください。それは全く主体性を欠いていました。高校時代は国際政治学を学びたく、法学部を志望していました。当時は共通一次試験が3年目を経ており、試験点数による入試合否のリスク管理は確実性を高めていました。そのため、高校の担任からはリスク回避のためで経済学部の受験を勧められ、また、親の意向もあって経済学部を受験し、入学となりました。

1年目の教養部時代には、経済学部に入學した以上は経済学を学ぶべきと思い、当時教養部に在籍されていた福留先生の経済学を受講しました。他には、高校時代が理系ということで統計学を、また、当初の志望分野であった国際関係論を始めとして興味のおもむく分野の授業を履修しました。福留先生の授業では、高校で学んだ政経の学習内容を超えて、資本主義経済の成り立ちというものが理解できたことに大きな知的興奮を感じたものです。他方、統計学についてはそれほど関心を持たず、学部に進学しても、これ以上統計学の講義を受講しないだろう、と思いました。

学部に進学した2年次後期に、当時は学期内での履修単位数の上限が制度化されていなかったため、時間割上の授業を目一杯とり、卒業要件単位の修得を早期に完了させようと思いました。その関係で、受講意欲を喪失していた統計学の授業も履修することにしたのですが、それこそ大屋先生がご開講されていた科目でした。先生は、ラスパイレス型物価指数計算式の技術的構造とそれに伴う指数作成の労力

節約性と物価水準認識上の問題点など、いくつかのテーマで講義されました。私は、このような統計学は興味深いものだ、と認識を改めたのでした。

3年次のゼミ選択では、2年次に受講した授業での興味に従って、大屋ゼミにするか、荒巻ゼミにするか迷いました。荒巻先生のご講義では東ドイツの政治経済体制のお話しに興味を引かれていたのです。結局、ゼミ生の数が少ない大屋ゼミならば、学生として享受する便益が大きいだらうと考えて大屋ゼミを志望し、受け入れていただきました。この時点では、濱砂先生は西ドイツにご留学中だったので、濱砂ゼミは選択肢にありませんでした。濱砂先生は翌年に帰国され、その時から、濱砂先生のゼミにも参加させていただきました。

演習以外の講義では、武野先生の国民経済計算の理論構造のお話と、森本先生による先行研究のご検討が印象的でした。経済学部の先生方が学界で一流を極めていらっしゃるのですが、そのことを一介の学部生が知る由もありませんでした。今にして思えば、貴重な体験でした。

大屋先生に大学院生として採っていただいていたからは、今でも鮮烈に思い出される一言があります。大屋ゼミの大学院生は、一時期、私一人だけという状況でした。午前の演習が終わり、先生と生協食堂に昼食をとりに行く途上のことです。私は先生に、「武野先生や徳永先生の研究室は院生が多勢なのに、統計学研究室はなぜこんなに院生が少ないのでしょうか？」と尋ねてみました。先生はあっさりと、「そりゃ君、統計学が面白くないからだよ」とお答えになりました。これはもちろん、一般論としての文脈でのお話です。このように先生がさらりとお話されたことから、ご自身の研究様式である「客観の視座」が生活の万事に及んで透徹しているのだな、という感銘を受けました。そして、先生のお言葉には、かつての学部1年生時代の私の姿が重なって見えたのでした。

さて、濱砂先生の思い出ですが、研究室にお伺いすると常人の及ばざる気迫でお仕事されているお姿に、いつも圧倒されました。そうした濱砂先生のお言葉で強く記憶に残っているものの一つが、「統計学は雑学なんだよ」です。濱砂先生は大屋先生の「客観の視座」を継承されてご研究されていましたが、統計理論はもちろんのこと、経済学、弁証法、そしてドイツ語力を駆使されており、そうしたご研究姿勢が上記の一言に凝縮されていたように思います。そのような濱砂先生でしたから、専門分野の枠を超

えて研究者が集う九州経済学会では、懇親会の席で経済理論系の先生方と対等に議論されていました。

濱砂先生の晩年におけるご研究領域は、政府統計におけるモラルハザード論でした。先生はこの論題に関して2013年の日本統計学会春季研究集会でセッションをオーガナイズされ、2010年国勢調査での愛知県東浦町における統計値の水増し問題について研究報告されました。そして、ありがたいことに私のような浅学にも報告機会を与えてくださいました。濱砂先生が、「モラルハザード論は統計学における前人未踏分野の開拓なのだ」と熱意をもってお話しされたお姿が今でも目に浮かびます。2019年に世間を震撼させた毎月勤労統計調査の不正問題を考えますと、先生が政府統計のモラルハザード論を開拓されたことは先見の明というほかありません。それなのに、2014年に濱砂先生が留学先のドイツで客死されたことは、統計学の発展にとってあまりにも惜しまれることでした。

大屋先生と濱砂先生からの学恩は感謝してもつくすことができません。大屋先生の『統計情報論』はことあるごとに読み返しており、論理をぎりぎりまで詰めて、確たる表現に至るのだな、という新たな発見が常にあります。それは私にとって大切な知的栄養素です。

私の経済学部への入学は、冒頭に書いた通り全く主体性を欠くものでした。しかし、今日、職場を共にする法律学専攻の同僚と会話して彼らの思考様式に触れるたびに、「自分は法学部の勉強に向いていなかっただろう。経済学部への進学はけがの功名だったかな」と思い至るのですが、これは経済学部の先生方のご指導のたまものなのかもしれません。

(2021年8月31日)

追記：この随想を書き上げたちょうど3週間後に大屋先生の訃報に接し、大きな悲しみに打ちひしがれています。大屋先生の学問、そしてお人柄は、常に私たちの仰ぎ見るところでした。先生にはいつまでも我々の精神的支柱としてお過ししていただきかった。先生から賜った薫陶を胸に、よりよい人生を送る大切さを痛切に感じています。大屋先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

(2021年9月27日)

リレー随想

理学部入学から 経済学府修了までの20年 —宇宙地球電磁気学と会計学—



西南学院大学准教授

原口 健太郎氏

2016(平成28)年博士入

(1) 自己紹介：理学部からNTTデータへ

西南学院大学商学部准教授の原口健太郎と申します。この度は大変貴重な寄稿の機会を賜りまして御礼申し上げます。

私は1998年4月に九州大学理学部地球惑星科学科に入学し、その後、同大学院理学府に進学して修士(理学)を取得しました。当時の専門は宇宙地球電磁気学研究分野で、卒業論文・修士論文は共にオーロラの研究でした。

当時からアカデミアへの憧れは強く、博士進学も検討したのですが、将来的に研究の世界に戻るとしても実務の世界を経験しておきたいと考え、2004年4月にNTTデータに入社し金融システム事業本部に配属されました。当時のNTTデータには九州出身者を同一の社員寮に入居させる方針があったため、私が3年間を過ごした千葉の幕張寮には九大OBの同期も多く、箱崎キャンパス近隣のグルメや六本松の思い出など、週末の飲み会は大いに盛り上がりました。周囲の経済学部出身者は総じて優秀な上にコミュニケーション能力も抜群で、理系組も頑張らねばと思ったものです。

(2) 会計学との出会いと経済学府博士後期課程

その後、九州への思いを捨てがたく、2007年に出身の長崎に戻り、長崎県庁に入庁して12年間行政職として勤務しました。農林部、上五島支所、水産部、人事委員会と多岐にわたる所属を渡り歩き、思えば、一つの専門に生涯を捧げる研究者人生とは真逆とも言える環境だったかもしれません。幅広く地方自治行政実務に触れることができたことは非常に貴重な経験でした。多くの仲間に恵まれ、毎年の同期旅行で壱岐や五島といった長崎県の離島を巡っていたこ



伊都キャンパスにて、夫婦で博士学位記授与式に出席

とを思い出します。

県庁で最も長く携わったのは予算や会計に関する業務でした。霞が関の会計検査院に調査官として2年間出向したこともあります。出向時に企業会計・公会計の検査業務に携わったり米国公認会計士の資格を取得したりする中で会計学の面白さに気づき、さらに学術的に追求したいと考え、県庁帰任後、2016年4月に九州大学大学院の経済学府(博士後期課程)に社会人特別枠として入学し、勤務の傍ら再度学生生活を送ることになりました。

指導教官は会計学がご専門の大石桂一教授(現:九大経済学部長・教授)で、理学部出身者を指導するのは初めてとのことでした。入学審査のため「修士論文を提出するように」との指示を受け、オーロラの論文を提出した際には随分驚かれたのではないかと思います。さすがに審査対象にできないとのこと、会計検査院時代に執筆した別稿を提出し、「修士論文に代わるもの」として審査いただき、何とか入学を認めていただきました。

博士入学時には既に結婚していたため、「結婚後に夫が学生になった場合は『学生結婚』に該当するのかわか?」と夫婦で議論したことを覚えています。九大でゼミに出席した後、深夜に長崎駅に到着した私を迎えに来てもらったり、論文の誤字脱字チェックをしてもらったりと、私の博士号取得は妻の支えなしには実現できないものでした。

入学願書の緊急連絡先も妻の名前にしていたところ、九大学生係ではどうも緊急連絡先=保護者と処理しているらしく、通常の学生であれば差し支えないのですが、原口家では大学から「保護者様へ」の文書が妻あてに届くようになりました。確かに、わが家における妻は長崎西高放送部の先輩でもあり、夫の保護者的役割を果たす場面が多々あることから実質的には妥当とも考えられますが、一般に

は妻を保護者とは呼称しないと思われまので、学生係の皆様方には、もしこれをご覧になっていたら、今後送付の際ご一考いただければと存じます。卒業しましたのでお送りいただく機会はあまりないと思いますが。ちなみに妻は現在、九大経済学研究院長秘書を務めさせていただいており、同室勤務の九大経済学部同窓会事務局・藤原様には日頃からたいへんお世話になっております。お二方とも本稿をご覧になっていると思いますので、この場を借りて深く感謝申し上げます。

(3) 県庁を退職し、西南キャンパスへ

博士取得後は県庁で勤務継続も考えたのですが、縁あって2019年4月から西南学院大学商学部にて会計学を教えることになりました。チャペルに響くパイオルガンや讃美歌を新鮮に感じながら、NTTデータ・県庁・会計検査院のいずれとも全く違う生活を興味深く感じているところです。また、昨年公認会計士試験（日本）に合格し、現在、日本公認会計士協会北部九州会が運営する九州実務補習所にて実務補習にも従事しています。

合計9年間で九大で過ごしましたが、振り返ってみると経済学府で過ごした3年間はとりわけ高度な学びに溢れたものでした。在学中の親身なご指導はもちろん、卒業後も大石ゼミ研究会に参加させていただいており、大石先生の九大院生時代の指導教官である津守常弘先生（現九州大学名誉教授：九州情報大学教授）や徳賀芳弘先生（現京都大学名誉教授：京都先端技術大学教授）からご指導を頂く機会もあります。九大経済の素晴らしい歴史と教育環境のもとで学べたことは、私の人生の大きな財産となりました。教壇に立つ機会も増えましたが、これまで学んだことを一つでも多く学生に伝えられるように頑張っています。

経済学部・学府の先輩方には今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



指導教官の大石桂一教授と日本会計研究学会学術奨励賞受賞時の記念撮影

リレー随想

資格のススメ



久留米大学病院医療連携センター

山口 圭三氏

2021(令和3)年QBS修了

この度は寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。自己紹介をいたします。1994年に大学を卒業後、海上自衛隊に入隊、11年間自衛隊医官として国家防衛の任務に従事し、その後民間病院勤務を経て、2009年から久留米大学医学部の教員をしています。2015年から2年間厚生労働省の出先機関（九州厚生局熊本事務所）への出向後、2017年から現在まで大学病院の医療連携センター（一般企業のカスタマーサービスセンターに該当）で勤務しています。2019年から2年間九州大学経済学府産業マネジメント専攻（QBS）で学びました。元々は消化器外科医でしたが、医師としては「キワモノ」であることを自覚しております。最近は家庭内で『元医者』あるいは『にせ医者』扱いで、医師としてのアイデンティティを急速に失いつつあります。本業においても患者さんの外来診療を行い、手術・術後管理等に従事するいわゆる臨床を担う事は皆無で、もっぱらプロジェクトマネージャー的な業務ばかりです。QBSで学んだことがそのまま（応用することなく、パクリともいう）活かしているという、何とも幸運な立場にあります。今回の寄稿では私がQBSに入学した経緯について、述べます。

2015年からの2年間、私は九州厚生局に出向していました。それまでの20年間のうち、前半は自衛隊医官として、大学病院勤務や2年間ではありますが護衛艦所属となり、海外派遣を経験しました。後半は一般臨床医として、外来、手術、病棟業務に勤んでおりました。一般臨床医となってからは患者さ

んの急変時や緊急手術の際に真夜中に携帯電話が鳴り、病院に駆けつけたことも数えきれません。そのような生活を10年続けていたところ、出向により8時30分から17時15分までの規則正しい勤務に変わりました。携帯電話で夜中にたたき起こされることはなくなり、夜は22時に就寝可能というワークライフバランスを絵に描いたような生活パターンです。

でも、私には物足りない、端的に申せば、時間を持て余しました。往復2時間の通勤時間を含めると、自由時間が1日3時間から4時間、これを何かに活かさないかと考えた結果が資格試験の勉強です。本業に活かせるかどうかの観点からというよりも、試験に受かるかどうかで目指す資格を選択しました。試験勉強はほぼ全ての資格で同じ手法をとり、テキストを通読することは行わず、過去問をひたすら繰り返す方法です。以下、2015年以降に取得した資格を列挙します。

1. 医療経営士3級（2015年2月合格、勉強期間4週間）
2. 診療情報管理士（2016年2月合格、勉強期間1年）
3. FP2級（2017年1月、勉強期間4か月）
4. 英検準1級（2018年2月合格、勉強期間1年間）
5. 社会保険労務士（2018年8月、勉強期間3年4か月）

社会保険労務士は、行政機関に提出する提出書類や申請書等を依頼者に代わって作成すること、個別労働関係紛争の解決手続の代理を行うこと、また企業を経営していくうえでの労務管理や社会保険や年金についての相談・指導を行うことを業とする国家資格です。厚労省に出向した証として、2015年5月に受験を決意しました。私が資格試験勉強に嵌まるきっかけとなった資格です。

この試験にはかなり難渋し、4度目の正直となりました。1回目、2回目は箸にも棒にもかからず。3回目の試験でようやく合格ラインに乗りましたが、



自衛官時代

足りに引っかかり不合格となります。4回目も足りに引っかかり自己採点では1点足らずで不合格のところ、救済措置が発動して（いわゆる得点調整が行われ）復活合格となりました。

6. メンタルヘルスマネジメント・ラインケアコース（2018年11月合格、勉強期間2週間）
 7. 年金アドバイザー3級（2018年11月、勉強期間1週間）
 8. 簿記3級（2019年2月、勉強期間2か月）
- QBS入学前の準備学習で「簿記3級程度」の能力が必要とされていたので、受験しました。
9. TOEIC（2019年3月、勉強期間4か月）
- これもQBS入学前の準備学習で「TOEIC730点」が必要とされていたことから、慌てて準備をいたしました。2018年12月655点、2019年1月735点、3月820点と最終的には目標点をマークすることが出来ました。「人間、お尻に火がつけばなんとかなる」ことを実感しました。
10. 医療経営士2級（2020年6月合格、勉強期間2か月）
 11. MBA（2021年3月取得）

QBSの存在を初めて知ったのが2018年の9月頃でした。2018年8月に4回目の社労士試験が終わり、試験勉強ロスに陥っていた時期であります。ある医療法人の経営者から、ビジネススクールの存在を教えられ、受験を勧められました。自身のキャリアに行き詰まりを感じていた時期でもあったので、言われるままに受験の準備をしました。

2年間の修業期間中、1年目は博多および伊都キャンパスでの対面講義を受講しました。新型コロナウイルス感染症流行のため、2年目はほぼweb講義となりました。同期生との対面交流ができない反面、通学時間がなくなったことにより金銭的・肉体的負担が軽減されるという良い面もありました。プロジェクト論文（修士論文）では、コロナ禍で疲弊した医療機関の経営改善方法を探求しました。修士論文執筆や各講義の予習復習、試験対策・レポート作成に費やした時間は2年間で2000時間を優に超えますが、それに見合った価値がありました。

資格を取得する目的はひとそれぞれですが、私にとって資格試験の勉強をする目的は

- （1）医療以外の世界を知るため
- （2）認知症予防のため
- （3）暇つぶしのため

決して現在の業務が暇で仕方ないと言っているわけではありませんので、誤解ないようお願いします。

私が取得した資格の中で、最もお勧めする資格はもちろんMBA（QBS）です。自らが所属する業界を飛び越え、ビジネスで抱えているモヤモヤを解決

するには最高の環境です。異業種の同期生との交流は非常に刺激的で、経済学部のOBの方々にも強くお勧めします。

人物往来 ～新教員紹介



おぎ たけひこ 教授
小城 武彦

【担当講義】

学府（ビジネススクール）
：「コーポレート・ガバナンスと監査」
「Management Control」
「プロジェクト演習」
学部：「国際ビジネス」(隔年)

【自己紹介】

はじめまして。昨年10月に着任しました、おぎ たけひこ小城武彦です。私の苗字からお分かりかもしれませんが。祖父の代まで佐賀県に住んでおりました。私自身は東京生まれ、神奈川育ちですが、家内が福岡出身ということもあって、昨年福岡に移住してきました。世代を跨ったUターンということになります。

私は少々変わった職歴を有しています。大学卒業後は旧通商産業省に入り、13年間ほど国家公務員をしておりました。その後思うところあって企業経営を志し、まずはカルチュア・コンビニエンス・クラブ（TSUTAYAやTポイントでご存じかもしれません）という当時成長著しかったベンチャー企業で

しばらく修行した後に、企業再生に取り組むカネボウの社長として再建を指揮し、その後丸善という書籍流通の会社の社長を務めています。こうしているうちに、業績が悪い日本企業には類似点が多いことに気付き、それを研究すべく東京大学大学院経済学研究科の博士課程に入学して学位（経済学博士）を取得しています。

直近では、国が設立した日本人材機構という会社の代表として、首都圏のビジネスパーソンを地方中小中堅企業の経営幹部に招聘するための人材マーケット創りに取り組んでいました。マーケットが民間企業主体でうまく動き出したので会社を解散し、昨年からは本学にお世話になっています。

本学では、自らの経験を踏まえながら、リアリティにあふれた経営学を教授できればと考えています。私にとって、経営とは総合格闘技であり、様々な学問領域の知を統合して経営の現場に適応できる人材の育成に汗を流したいと思っています。企業の価値創造の原点は人材の力であり、その人材を育成する本学での仕事にやりがいを感じています。どうぞ、よろしく願いいたします。



ひろがき みつのり 准教授
広垣 光紀

【担当講義】

学府：「マーケティング戦略」
「プロジェクト演習」
「International Marketing」

【自己紹介】

はじめまして。2021年4月に九州大学大学院・経済学研究院に着任した広垣光紀と申します。生まれも育ちも京都ですが、福岡には親戚や友人が住んでいることもあり親しみを感じており、この度のご縁を大変嬉しく思っています。

私の専門領域はマーケティングとマーケティング

グ・リサーチです。（1）日本のような成熟したマーケットでの効果的・効率的なマーケティングのあり方、そして（2）異なった国や文化圏の消費者をどのように理解し、どのようにマーケティングすべきかを研究テーマに、消費者調査をベースとした国際比較に取り組んでいます。分析には、消費者へのアンケート、商品を選ぶ際の行動観察、ソーシャルメディアでの口コミや商品レビューなどの文字・音声情報など、様々なデータを用います。若者世代の購買・消費行動については各国間の差異の縮小が指摘されており、その要因にはインターネットやソーシャルメディアの普及、商品・サービスの世界共通化などが挙げられています。しかし、なぜそのようなグローバルな市場の融合が生じるのかについては、

まだ議論の途上にあります。それを解明するため、私は「消費者革新性」という概念に着目して研究を進めています。

講義は「マーケティング戦略」と「International

Marketing」を担当します。最新の学術的知見やケーススタディをもとにした、実践的な問題解決能力の育成を目指します。九州大学の皆さん、これからどうぞよろしくお願い致します。



三輪 こうたろう 宏太郎 准教授

【担当講義】

学部：「金融」「金融と経済」

「経済工学演習」

学府：「現代金融特研」

「リサーチ・ワークショップ」

【自己紹介】

2021年10月に九州大学大学院経済学研究院に赴任しました三輪宏太郎と申します。17年にわたり、資産運用会社において、クオンツアナリスト・ファンドマネージャーを兼任し、学術的リサーチに重きを置いた資産運用・研究を行ってまいりました。QBS所属でない実務家出身教員ということで、やや異色の存在であるかもしれません。大学や前職の会社も東京にあったことから、東京での生活が長く、福岡で生活するのは初めてとなります。

専門は、前職の関係から、証券投資論・資産価格論となります。特に、投資家の心理が資産価格にどのような影響を与えるのか、所謂、行動ファイナンスと呼ばれる分野を中心に研究をしております。投資家の心理は直接計測することはできません。そのため、様々な媒体（例えば、文書情報、会話などの音声情報、映像など）を分析し、投資家の心理的側面を解明する研究を行っております。九州大学では、金融や証券投資論関連の授業、そして研究指導を担当しています。

着任と同時に、新型コロナウイルスのまん延により、オンライン中心の運用となり、右も左もわからない日々が続いておりました。しかし、皆様からのお力添えにより、充実した教育・研究活動を行っております。微力ながら、これからも九州大学の更なる発展に貢献できるよう努力してまいります。皆様よろしくお願いたします。



伊豆 いずなが 永 洋一 講師

【担当講義】

学部：「情報システム」

「情報処理Ⅱ」

「経済工学演習」

学府：「情報管理特研」

【自己紹介】

2021年4月に経済学研究院・数理情報講座に着任いたしました伊豆永洋一と申します。出身は熊本県で、大学院修士課程までを山口県で、博士課程を茨城県で過ごしました。学位取得後は、民間研究所で研究員、筑波大学と神奈川大学で助教を務めておりました。この度、九州大学への移籍に伴い、高校卒業以来約16年ぶりの九州での生活となります。

専門はオペレーションズ・リサーチ（OR）という分野で、特に最適化問題と呼ばれる数理モデルに対するアルゴリズム設計を中心に研究を行っていま

す。最適化問題とは、いくつかの候補の中から最良のものを見つける問題であり、実社会の様々な問題がこのような形に定式化できるため、最適化問題を解くことにより合理的な意思決定を支援することが可能となります。数理最適化の応用は広範囲に渡り、古くは工場における生産計画、施設配置、ファイナンスといったものから、近年では機械学習やデータマイニングなどの広い意味での人工知能分野の基盤技術としても注目を浴びています。このように様々な問題が最適化問題として定式化できることが知られていますが、一方でこれらの大部分が計算困難な問題群に属することが理論的に示されています。このような背景の下で、計算困難な最適化問題を現実的な時間で解く効率的なアルゴリズムを設計することが私の研究テーマです。

今後もより一層、研究と教育に励み、九州大学の発展に微力ながら貢献できるよう努力していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願申し上げます。

経済学部名誉教授の会

4月15日の秀村選三先生の御逝去は、大きな衝撃でした。2019年6月18日、福岡支部総会の懇親会で、木下悦二先生の白寿の御祝いに続いて、乾杯の音頭を執って下さった秀村先生の元気なお姿を念頭に浮かべていました。(この総会の議事の折に秀村先生と同席していました。受付で頂いた資料入れの紙袋について、雑記帳を入れた私の紙袋と、先生の紙袋を取り違える失敗を犯しました。後日、丁寧なお便りとともに雑記帳を送り届けて頂いて、痛く恐縮致しました。折り返しお礼状を書いたのが、最後の交信になって仕舞いました)。

九州大学経済学部について、先生はこう愛好の弁を述べておられます。「経済学部は私にとって大変住みやすい良い学部でした。ちょっとズボラで、とぼけたところがあり、余り片意地張っていない自由さが良く、しかも或る大切なことになると、見違えるように引き締まって、一致協力事にあたる気風は今後も持ち続けてほしいものです」(『さようなら！九州大学』1986年版)。先生の愛好の情は、経済学部とともに、同窓会の初代会長・田中定先生の指名で初代の事務局長を勤められた同窓会にも及んでいました。経済学部とその同窓会への情愛の結晶として、経済学部五〇年史『宮崎松原の青春』(1978年)、515頁の大冊の編集・刊行を挙げることができます。既に出された『九州大学五〇年史』は正史であるが、経済学部の五〇年史はくだけた面白いものにしたいとの思いから、卒業生に加えて事務の人や古本屋の親父さんや飲み屋のおばちゃんにも書いてもらった、と語っておられます。

私は、2005年3月の九州大学定年後、名誉教授の会の末席に列なっていました。2010年4月3日の集いの終わり近く、突然に秀村先生が次のように発言されました。「1968年からの大学紛争を契機に経済学部は大きく変化したように思われる。関係者が元気なうちに記録を残しておきたい。その記録を残すことをこの会の仕事に加えたら如何でしょう?」。大方の賛成が得られた頃合いを見計らって、「ついでには、この会の幹事の福留さんに記録係もお願いしたいと思いますが、どうでしょう?」と続けられた。私ひとりの躊躇の声は、皆さんの賛同の拍手にかき消されて仕舞いました。

秀村先生の思いに応える仕事が出来ていないのが、実情です。刊行物としては僅かに次のものがあるだ

けです。一つは、1968年6月2日の米軍機墜落事件を巡って木下先生から託された九大の会議資料と米国国立公文書館所蔵の米国国務省と駐日米国大使館との交信記録を参照して、大学と米国の交渉の一端を探った仕事(「米軍機墜落の資料蒐集——九州大学1968・6——」福岡国際大学紀要第29号、2013年)。二つは、川波洋一研究院長から山本健児研究院長に至る時期に、経済学部の北澤満・鷲崎俊太郎先生に纏めて頂いた『九州大学経済学部名誉教授の会・座談会』(2013年)。その座談会では、2012年10月6日と10月27日の午後一杯を費やして、木下悦二、秀村選三、大屋祐雪、市村昭三、川端久夫、児玉正憲、原田溥、逢坂充、矢田俊文、福留久大、丑山優、濱砂敬郎、荻野喜弘の各名誉教授が、人生のアウトライン、経営学科や経済工学科など戦後経済学部拡充の経緯、若手研究者への期待・希望を語り合っています。

2018年6月20日、磯谷明德研究院長と藤井美男同窓会事務局長の計らいで、経済工学科設立の経緯と学内予算の配分方法などについて、教授会終了後に懇談の場を用意して頂き、木下先生と秀村先生に20分ずつ現役の先生方に向けて話して頂くことができました。(2021年9月10日)。

追記：悲報は続きます。9月15日には大屋祐雪先生が逝去されました。偶然、今号の「リレー随想」には、佐野よし彦、松川太一郎、お二人の大屋ゼミOBの寄稿を頂いていました。生前の大屋先生の御眼にかけられず残念の極みです。急ぎお二人に短く追悼の辞を書き添えて頂きました。 福留 久大



2019年支部総会で乾杯の音頭を執られる秀村先生。
左は介添役の福留先生。

九州大学経済学部 国際学術交流振興基金執行状況報告（2020年度）

2021年4月より国際交流委員長を拝命しました瀧本 太郎（たきもと たろう）と申します。同窓会の皆様には、本学の発展のため平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

1年半が過ぎてもなお新型コロナウイルスによる社会への影響がなかなか収束しないなか、皆様におかれましては、日常生活において大変なご苦勞を重ねられていることと推察します。大学におきましても同様に多大な影響を受けておきまして、特に人の交流が止まってしまい国際交流も難しい状況になってきています。留学生によっては、九州大学進学後も入国がかなわず母国からオンラインでの講義参加が続いているケースも散見されるような状況です。しかしながら、この間オンラインでの会議や講義を通じて得た新技術に基づくノウハウにより、新しい形の国際交流を現在模索しているところでございます。

2020年度の国際学術交流振興基金の執行状況について報告させていただきます。学生海外派遣（アウトバウンド）に関して、大学院生の山野真拓君の中国人民大学への留学奨学金、学部生の肥田勲君・黒木政子さんの国立台湾大学への留学奨学金として本基金を利用させていただきました。留学生受け入れ（インバウンド）に関して、指定校である中国人民大学の留学生の王立君への奨学金として本基金を利用させていただきました。アウトバウンドにつきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い途中で帰国するケースもありながらも、オンラインで引き続き現地の講義に参加し留学を無事に終えております。また、山野君は、中国人民大学とのダブルディグリープログラムに参加しており、2021年3月に九州大学から、2021年6月に中国人民大学から、修士号を取得しており、今後の活躍が非常に期待されているところであります。また、王君は4月から博士課程に進学し、研究を継続している状況です。このように、本基金はアウトバウンド、インバウンドの活性化にとって極めて重要な役割を果たしており、今後とも部局の教育・研究の国際化に向けて本基金を戦略的・計画的に利用させていただければと考えております。

例年であれば、九州大学・中国人民大学・南京大学との3大学合同カンファレンスについても国際交流に伴う物件費として報告させていただいているところですが、昨年度の支出はありませんでした。しかしながら、合同カンファレンス自体はオンラインで2020年11月21日に「Global Economy and Business Management after COVID-19」というテーマで開催されており、本局からは、水野敦子先生、松永正樹先生、瀧本の3名が研究発表をしております。オンラインではありましたが、当日は活発に意見交換が行われており、今後の海外交流の1つのあり方として、オンラインベースも外せないものになりつつあると思われまます。

この原稿を書いている8月5日現在は、まさに第5波の真ただ中にあり、いつピークアウトするのかも見通せない非常に厳しい状況です。しかしながら、九州大学経済学部は昨年4月以降オンライン特設チームによる検討をもとに急速にオンライン化へと舵を切り、学生のニーズをくみ取りながら多くの経験を得てきております。今年度はこれらの知見を活かし、より一層研究と教育の質を高めていくことはもちろんのこと、オンラインでリアルタイムに海外とコミュニケーションがとれる利点を活かしつつ、国際交流についても新しいあり方を切り開いていきたいと考えております。同窓会の会員の皆様もどうかお体には十分ご自愛いただきながら、このピンチを活かす道を模索いただけますと幸いです。今度とも引き続きより一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

【国際交流委員長 瀧本 太郎】

国際学術交流振興基金による活動状況報告（2020年度）

申請者	内容	期間
【 海外派遣 】		
山野 真拓（大学院生）	※院生等の交換留学支援 中国人民大学への留学支援（奨学金）	20.4月（20.2月）～20.8月
肥田 勲・黒木 政子（学部生）	※院生等の交換留学支援 国立台湾大学への留学支援（奨学金）	20.4月～20.7月
【 指定校推薦入学者（学府生）の奨学金 】		
王 立	※指定校からの学府入学者への奨学金 中国人民大学からの受け入れ	20.4月～21.3月

令和2年度卒業生就職状況

令和3年3月31日現在、()は女子で内数

学 部	
就 職 先	人数()
CTCテクノロジー	1
Forevision	1
FUNDBOOK	1
info cubic	1
JFEスチール	2
JR博多シティ	1
LIFULL	1
MS&ADシステムズ	2(1)
NTTデータ	1
NTTデータ経営研究所	1
NTTドコモ	2
PwCあらた有限責任監査法人	1
SBI証券	1
SBIホールディングス	1
SMBC日興証券	2
SOLIZE Engineering	1
WinGrow	1
アウトソーシングテクノロジー	3
味の素	2(1)
アクセンチュア	2(1)
阿波銀行	1
いい生活	1
石垣	1
伊藤忠商事	1
伊藤忠丸紅鉄鋼	1
荏原製作所	1
大分県	1
岡山県	1(1)
オービック	1(1)
オープンハウス	1(1)
オープンハウス・アーキテクト	1
オムロンヘルスケア	1(1)
花王プロフェッショナル・サービス	1
嘉麻市	1
神奈川県	1
キーエンス	1
北九州市	1
九州大学	1(1)
九州電力	4(1)
九州リースサービス	1
九州旅客鉄道	1(1)
キリンホールディングス	1
空研工業	1
熊本市	1
ケンショー	1(1)
コカ・コーラ ボトラーズジャパン	1(1)
国際協力銀行	1
西部ガス	1
サザンクロスシステムズ	1
さなる九州	1
シオステクノロジー	1
シーユーシー	1
シンプレクス	2
ジール	1(1)
ジェーシービー	1
住友電気工業	1
スリーエイ・システム	2(1)
駿河台学園	1
セプテーニ・ホールディングス	1
税理士法人創経	1
税理士法人山田アンドパートナーズ	1(1)
ゼウス・エンタープライズ	1
全国大学生協連	1
ソフトバンク	1(1)
大成建設	1
ダイショー	1(1)

就 職 先	人数()
ダイレクト出版	1
大和証券	3
第一交通産業	1
チームラボ	1
ティーシートレーディング	1
テクノ工営	1
ディー・エヌ・エー	1
デジタルホールディングス	1(1)
デロイト・マツコンサルティング合同会社	1
デロイト・マツファイナシアルアドバイザリー合同会社	1(1)
電源開発	1
電通国際情報サービス	1
東京海上日動火災保険	1(1)
東京海上日動システムズ	1
トヨタカスタマイジング&ディベロップメント	1
トヨタ自動車	2
トヨタ自動車九州	1(1)
長崎県	1
西日本シティ銀行	5(1)
西日本旅客鉄道	2(1)
西日本鉄道	3(1)
ニチレイ	1
日本政策金融公庫	4(2)
日本政策投資銀行	3
日本銀行	1
日本通運	1(1)
日本郵便	1
ネットマーケティング	1(1)
農林中央金庫	4
野村不動産	2
野村證券	1
博報堂	1
バルセロナ	1(1)
東日本電信電話	1
ビジョナル	1
福岡銀行	7(1)
福岡国税局	2
福岡市	2
福岡地方裁判所	1
福岡労働局	1(1)
富国生命保険相互会社	1
富士エンジニアリングサービス	1
富士ソフト	1(1)
富士通	2
富士通ビー・エス・シー	1
藤原設計	1
二島郵便局	1
防衛省	1
マイクロアド	1(1)
前田建設工業	1
マネーフォワード	1
豆蔵	1
丸紅	1
みずほフィナンシャルグループ	5(1)
みずほ証券	1
三井住友海上火災保険	1
三井住友銀行	4(1)
三井住友信託銀行	2(1)
三菱UFJ銀行	1
三菱ガス化学	1(1)
三菱電機	2(1)
明治安田生命相互会社	1
メンバーズ	2
読売新聞西部本社	1(1)
ライボ	1
ラクーンホールディングス	1
楽天カード	1(1)

就 職 先	人数()
楽天銀行	1
理想科学工業	1
レバレジーズ	1(1)
ワールドインテック	1
学部計	188(41)

学 府	
就 職 先	人数()
ADKマーケティング・ソリューションズ	1
FRONTEO	1
GMOペイメントゲートウェイ	1
JBCC	1
KPMG China	1(1)
NECソリューションイノベータ	1(1)
PWCあらた有限責任監査法人	1(1)
TECHNO JINSE Co.,Ltd	1
TOTO	1
YOTIA GAMES	1
アデリー	1
アルカセット・コンサルティング	1(1)
エムネットシステム	1
オダファーマシー	1
海光	1
九州大学	2(2)
九州風雲堂販売(株)	1
九州旅客鉄道	1
近畿大学	1
久留米大学	1
コージャパン	1
個人事業主(中山寿巳子)	1(1)
公正取引委員会事務総局	1
国際協力機構	1(1)
早良病院	1
サンキュードラッグ	1
彰化銀行	1
千寿製薬	1
ソフトバンク	1
大日本印刷	1
大和総研	1
タカギ	1
竹中工務店	1
玉名市	1
筑邦銀行	1
中国電力	1
テレビ熊本	1
東洋紡	1(1)
内閣府経済社会総合研究所	1
中野ポルト工場	1
にしけい	1
西日本シティ銀行	1
西日本鉄道	2
野村総合研究所上海	1
パナソニック	1(1)
姫野病院	1
福岡銀行	1
福岡商工会議所	1
福岡成蹊学園	1(1)
福岡中央銀行	1
プロティビティ中国	1(1)
マツモトキヨシ九州販売	1(1)
ミスターマックス・ホールディングス	1
メルコセミコンダクタエンジニアリング	1
楽天	2
渡辺重工	1(1)
学府計	59(14)
総計	247(55)

九州大学経済学部同窓会役員名簿

(カッコ内は卒業年次～昭和、ただしHは平成) 2021年9月

Table with columns for roles (役員) and names (氏名). Includes positions like 会長 (President), 副会長 (Vice President), 事務局長 (Secretary General), and various branch heads (東京支部, 関西支部, 福岡支部).

(評議員)
市村 昭三(元教官) 清水 一史(現教員)
東京支部と関西支部の理事、福岡支部の評議員の方々は、本部の評議員と兼務。

各支部の役員

Table listing branch officers (東京支部, 関西支部) with columns for roles (支部長, 副支部長, 顧問, 監事, 理事) and names (氏名).

Table listing branch officers (関西支部) with columns for roles (支部長, 副支部長, 顧問, 事務局長, 事務局長代理) and names (氏名).

Table listing branch officers (福岡支部) with columns for roles (監事, 理事) and names (氏名).

Table listing branch officers (福岡支部) with columns for roles (支部長, 副支部長, 副支部長兼事務局長, 監事, 評議員) and names (氏名).

Table listing branch officers (福岡支部) with columns for roles (評議員) and names (氏名).

Table listing regional officers (広島地区, 大分地区) with columns for roles (支部長) and names (氏名).

九州大学経済学部同窓会歴代会長

- 初代 田中 定氏 (昭和50年10月4日～)(3期8年)
 第2代 森下 弘氏 (昭和58年2月4日～)(1期3年)
 第3代 岡野 正實氏 (昭和61年10月24日～)(2期6年)
 第4代 谷川 大介氏 (平成4年10月9日～)(1期1年)
 第5代 渡邊 彦士氏 (平成5年7月7日～)(1期3年)
 第6代 福岡 道生氏 (平成8年10月11日～)(1期3年)
 第7代 吉田 清治氏 (平成12年2月10日～)(1期2年)
 第8代 森山 靖章氏 (平成14年5月31日～)(1期3年)
 第9代 平山 良明氏 (平成17年7月7日～)(1期3年)
 第10代 池田 弘一氏 (平成20年7月7日～)(2期6年)
 第11代 貫 正義氏 (平成26年7月7日～)

同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費(45,000円)と普通会費(3年間分4,500円)になっております。

終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

- | | | |
|-------|------|-----------------------------|
| ①終身会費 | 一括 | 45,000円 |
| ② | 3分割 | 15,000円×3回(15年間で納入完了) |
| ③ | 6分割 | 7,500円×6回(3年間で納入完了) |
| ④普通会費 | 3年間分 | 4,500円ずつ(11回・49,500円の納入で完了) |

◎平成18年(2006年)3月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。

◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。

◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に3回又は6回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。

◎会費納入や住所変更等のデータは、令和3年9月30日現在で集計しました。

住所など身の事情に変更がございましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。



九州大学経済学部同窓会事務局

(開室：平日の月・火・木・金 10時～17時)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学経済学部内

TEL 092-802-5561 / FAX 092-802-5560 / E-mail : dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

経済学部同窓会ホームページ <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4>

福留久大 九州大学名誉教授よりご寄付を頂きました。誠にありがとうございました。

経済学部同窓会の財政は変わらず厳しい状況です。

是非共、ご寄付、協賛広告のご協力をお願い申し上げます。

お申し込み、お問い合わせは、上記事務局までご連絡ください。